

甲斐絹座の新市場開拓と今後の展開

株式会社甲斐絹座

代表取締役 前田 市郎

1 海外販売その後

当社は、2010（平成22）年度地域中小企業海外販路開拓支援事業（経済産業省）の「甲斐絹の伝統を受継ぐ織物製品の海外展開支援事業」により2011（平成23）年1月20日～25日まで、フランスのパリで行われた「メゾン・エ・オブジェ」展に出展した。これがきっかけで、甲斐絹の伝統を活かしたデザインのストールが、2シーズンに亘りニューヨークのMoMA（ニューヨーク近代美術館）のデザインストアで販売された。

その後、数年は海外販売への取り組みも海外展示会への出展や商談の機会が少なく、大分減っていった。2014（平成26）年あたりからは、国内向けの営業に注力することにしていくことになる。海外への製品販売はよほど売り場と製品のマッチングが良くないと継続して販売し続けることは難しい。今後の経営展開への良い経験になった。

2 百貨店カタログへの掲載

2013（平成25）年からは、百貨店のカタログを制作している会社と提携して取り

組むこととし、上代価格5,000～30,000円の商品を提案し掲載し始めた。この取り組みは、基本的に数年のスパン（期間）で同じ製品を作り続けていないと効果が出ないものであり、甲斐絹座の商品計画とマッチングしていた。事実、売上が増加しはじめたのは、2年位後からであった（画像1）。



画像1：カタログページ

百貨店のカタログに掲載されることから、自社製品の写真をプロのカメラマンが撮ること。カタログに掲載されている商品が現在の日本のマーケットのそこそこのレベルの商品と一緒に並ぶということから、自社商品の信頼を得る上でとてもメリットのあることだと思われる。

事実、このカタログを見せながら商談をしていくとスムーズにことが運ぶことがあった。やはり、この時代の一流品と肩を並べられるカタログ掲載は、ビジネスチャンスをつかむ手段である。同時に自社情報をしっかりと発信するパブリシティ（広報）の役割もきっちり果たしているのです、会社や製品へのイメージアップのとても効果的な手段だと思う。今後もこの事業には力を入れていきたい。

3 新たな販売先の開拓（小売以外）

2015（平成 27）年頃、歌舞伎などの小道具を担当している会社から問い合わせがあった。歌舞伎の小道具として使われている、座布団や小物の生地が複製が出来ないかということである。生地サンプルなどを何度も見せて頂く機会があり、ずっと小道具として現場で使われてきた品物を実際に目の当たりにすると、何とも感慨を催す不思議な気持ちになった。



画像 2：復刻した生地の写真

この写真（画像 2）は、実際に座布団になっていた製品を甲斐絹で復刻した生地です。

元々は甲斐絹であったがボロボロになったので、一度昭和 30 年代にどこかで復刻したらしいのだが、我々が見せられた生地はレーヨン製であった。

でき上がった生地を見た担当者の方はいたく感激し、「今後は、一度に色々な生地の復刻は出来ないが、少しずつお願いしたい」との嬉しい言葉をいただいた。このようなちょっとしたことではあるが、復刻の生地を作ってきて本当に良かったと思う瞬間であった。

また、別件ではあるが夏目漱石の書斎の復元事業に協力して「甲斐絹」の座布団を作った経験もある。これは夏目漱石の次男「夏目伸六」のエッセイ「猫の墓」にその記述がある。

江戸時代から明治・大正・昭和の初期まで一世を風靡した「郡内縞（甲斐絹）」や「ぐんない絹」という言葉は井原西鶴や近松門左衛門の文章の中に出てくる「郡内縞のおもて」とか「ぐんない絹の小袖」とか、明治の夏目漱石の「虞美人草」の登場人物の「井上先生」が着ている羽織の裏が「鼠の甲斐絹」であったり、金子みすゞの「二つの小箱」の詩の中に「紅絹だの、繻子だの、甲斐絹だの」など、本当にそれぞれの時代にその存在感を発揮していたと思う。この特殊な「甘撚り・先練り・先染め」の製法の故に、現存している生地が最も少ない甲斐絹である。今後もこのような機会があれば、出来るだけ復刻していきたいと思う。

4 ミラノウニカ展への生地展示

ミラノウニカ展は、イタリアのミラノで、ヨーロッパ中心の特に洋服を作っているバイヤーを対象に、年2回開催される服地の展示会である。2014（平成26）年から甲斐絹座のメンバー会社が同展示会のJFW（日本ファッションウィーク推進機構）の特設ブース「The Japan Observatory」内の「山梨県絹人織織物工業組合ブース」に出展している。今回（2016年）は3年目ということで、純国産のシルクの生地が何処まで通用するか試したいという思いもあり、生地をハンガーサンプルにして10点程展示した。特に、製品での海外への提案は過去経験があるが、生地では初めてのため海外の特に一流のメゾン（オートクチュール）のバイヤーがどんな反応を示すか興味深かった（画像3及び4）。



画像3：The Japan Observatory 会場

今回生地をハンガー展示することに当たりハンガー用の英文純国産絹マークの使用許諾をいただきハンガーに添付したところ、とても分かりやすく好評であった。



画像4：展示したハンガー

実際の生地の評価については、ドバイのバイヤーとフランスのバイヤーの目にとまり、特にドバイのバイヤーについては非常に興味を示された。

シャンブレーとしての表現では無く黒でできないかという質問もあり、今後の対応如何ではビジネスチャンスも十分にありと考えている。もちろん、価格的な要素も大いにあると思うが、その質の高いトレサビリティや製造の一貫性、希少性等において打ち出し方次第では十分に海外市場でも通用する材料だと確信した。

5 ジャパンブランド事業（cilk プロジェクト）への参画

- ①プロジェクト名：絹のみち - 歩 -
- ②プロジェクト概要

関東経済産業局が推進する「絹のみち広域連携プロジェクト」において立ち上げた「アパレル・服飾雑貨の新ブランド「cilk」

(シルク)」を世界に通用するブランドとして確立するため、各産地の強みを持った絹関連事業者が連携し、各社の技術を最大限活かして新商品を開発し、展示会等を通じて積極的にPRすることで米国等での販路開拓を実現する」という事業である。

先ず「cilk」ブランドを立ち上げ、山口壯大氏のディレクションのもと、参加7社が新製品開発を行い、販促活動を行う。今年度（2016年）は海外メディア・バイヤーなど向けにカプセルコレクション及びデビューコレクションを行い、来年度（2017年）については海外市場に向け販路開拓をしていく計画である。

6 最後に

最後に夢みたいなことを書き恐縮です。現在、小学校1学年の児童数は約100万人である（平成26年版文部科学統計要覧）。その子供たち一人一人に絹の生地を教材として約22cm角の生地を使ってティッシュケースを作ってもらおう。100cm巾の生地で、55,000m（1,100反・1反50mの場合）必要になる。26^{もんめ}匁の生地であれば、約98gなので使用糸量は約5.4トンである。繭の量で行くと約30トンの繭が毎年消費される計算である。この数量は2015（平成27）年度の繭生産量約135トンのおよそ22%の数字になる。内容を工夫して2学年で使うとしたら倍の数になる。文部科学省の教育指導要領に純国産生糸を使用する

旨記載し、正式に教材として使っていただくことはできないのだろうか。

世界文化遺産に登録された富岡製糸場をはじめ、明治以来日本の近代化を支えてきた養蚕を含む絹産業について、きちんと正しい情報をしっかりと伝えていくことが大切で有ると思う。本物の絹に触れることにより、ポリエステルなどの化学繊維との違いも分かるようになる。絹を身近に感じ扱い方も覚えることにより、将来の賢い消費者を育てることになる。国産繭も確実な需要を創造することにより、繭価の安定を図ることができ、養蚕農家の減少に歯止めをかける一助になるかも知れない。これもまた意味新たな新市場開拓であると思われる。

以上述べてきた様に甲斐絹座は、国内及び海外に対する販路開拓を行って行くのであるが、今後とも、純国産絹の価値向上や需要創造を目指して行きたいと思っている。

■前田市郎（まへだ・いちろう）の紹介
株式会社甲斐絹座 代表取締役

〒403-0004

山梨県富士吉田市下吉田2丁目25-24

TEL：0555-23-2280

FAX：0555-23-2280

E-mail：info@kaikiza.com

HP：http://www.kaikiza.com

純国産絹マーク表示者登録番号：149

世界一薄い絹織物への挑戦

齋栄織物株式会社

代表取締役 齋藤 泰行

独自技術による世界一のものづくり

福島県川俣町^{かわまた}は、1,400年前の飛鳥時代の頃から養蚕・絹織物の産地として栄えてきました。当社は1952（昭和27）年に創業し、先染絹織物をはじめ絹織物の和装裏地や寝装用絹布地、輸出羽二重、工業用資材などを製造しています。明治時代から、川俣は絹織物の薄地、主にスカーフを作っていました。品質が良かったため、横浜港からアメリカやヨーロッパへ輸出されていました。外貨獲得の重要な産地であることから、日本銀行の出張所が東北ではじめて福島に開設され、輸送用に鉄道が東北本線の松川駅から川俣まで通っていました。しかし今では生産量は、約50年前の最盛期の15分の1まで減少しています。

日本の絹織物産業は、安い外国製品やナイロンなどの化学繊維によって打撃を受け、福島県でも最盛期の250社程から約20社に激減しています。また、ジーンズなどファッションの多様化によってスカーフなどは必需品でなくなり、また和装の衰退、化学繊維の発達とともに絹の文化はどんどん^{すた}廃れていきました。実は、原料の生

糸は輸入品であれば安価でしたが、当時は養蚕農家の保護の観点から規制があって使えず、高い国産原料では外国製品と価格で対抗できず、絹の産地はどんどん衰退していきました。現在、国産生糸は日本の絹需要量の0.2%程度しかありません。

そこで当社では先染織物の技術と薄地織りの技術を組み合わせた独自の技術により、世界一薄い絹織物を開発し、自社ブランドのストールやスカーフなどを作り始めました。先ほどお話ししたように、川俣には薄物の技術があり、一方、先染織物は川俣では当社しかやっていない、この2つの技術を合わせて世界一のものづくりをしようと思ったのです。先染織物とは、あらかじめ染色した糸を使って織るもので、織り上げた布を染色する後染より高度な技術が必要ですが、光沢と質感が特徴で玉虫色（シャンブレイ）の風合いやオーロラのような生地になります。

その外、当社のシルクは工業資材として、印刷・音響機器、フィルター、気象衛星のパラシュート、光ファイバーのジョイント部分など幅広く使われています。昨年から

は再生医療の一部に使われており、まだまだ潜在的な可能性があります。

世界一薄い絹織物の開発に成功

世界一薄い絹織物「フェアリー・フェザー（fairy feather（妖精の羽）」）（写真1）の開発に着手したのは、当社の生き残りをかけた挑戦でした。当時、後継者ができたこともあり、何か新しいもの、他社と差別化できる商品を作ってみようと思決めました。2008（平成20）年に経済産業省の「地域資源活用事業」の認定を受け、5年計画でスタートしました。当時、他社が手を出さない難しい超極細生糸にあえて挑戦したのは、ファッション業界では、これから薄くて軽い生地に流れが行くだろうと考えてのことでした。それに加えて長年のお付き合いがあるデザイナーの桂由美さんの『新婦がダンスを軽やかに踊れるように、体にやさしい軽いウエディングドレスを作りたい』という想いに応えるためでもありました（写真2）。

世界一薄い絹織物「フェアリー・フェザー」の開発には、4年の歳月がかかりました。細い生糸を織り上げるために原料となる繭は特別な物で、通常の繭は蚕が4回脱皮を繰り返して作ったものを使用しますが、フェアリー・フェザーは、三眠蚕^{さんみんさん}と呼ばれる3回しか脱皮をしない繭を作る品種の繭を使います。その生糸は髪の毛の太さ（約50デニール）の約6分の1（8デニール）という超極細で、この超極細絹糸を織機のたて糸に何千本もセットして織り上げ

るので、手に取ってもまったく質量を感じさせないほど軽く、細い生糸のもつ柔らかさがあります。

この極細の糸でも機械織りで大量に生産でき、しかも糸切れや毛羽立ちを起こさないようにするため、苦勞して織機に独自の改良を重ねました。当社と同じ織機であっても同じ製品はできません。機械が織っているのですが、実際は人が織っているとも言えるほど手間暇がかかるのです。従業員1人で12台くらいの織機を担当し、糸切れなどにすぐに対応できるように常に目配りしています（写真3）。

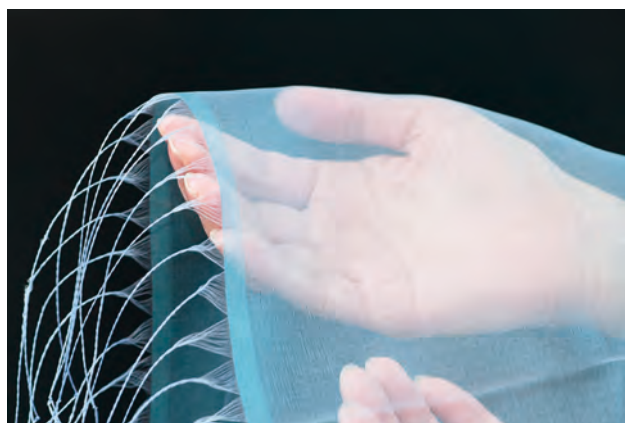


写真1：HPに掲載の妖精の羽ストール



写真2：妖精の羽のドレス

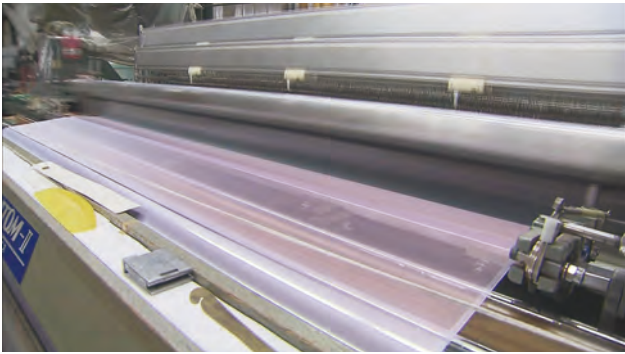


写真3：齊栄織物の織機

当社の社員は現在 17 名ですが、ベテランから 20 代の若手までおり、少しずつ技術が継承されています。しかし機械化されていても人の手に頼る、細かな根気のいる仕事です。人材確保には苦労していますが、幸いメディアなどで取り上げられて、ものづくりをしたいという若い人が来てくれています。

また、東日本大震災（2011 年）では、工場も機械も被害を受けて大規模改修をしました。従業員の協力もあり動く機械から動かし始めましたが、物流が止まっており、集配ができず苦労しました。たまたま加工場が京都と山形にありましたので、ほとんどお客様に迷惑をかけることがなかったのが救いでした。

自社ブランド『SAIEI SILK』を世界に

フェアリー・フェザーは、2012（平成 24）年 2 月の第 4 回ものづくり日本大賞で「内閣総理大臣賞」、更に 10 月「グッドデザイン賞」を受賞しました。世界一薄い絹織物というだけでなく、機械による量産化を実現させた技術力の高さが認められたのです。海外の製品に押されがちな日本の

繊維産業の中で、品質で世界に勝負できる製品としてマスコミなどで取り上げていただきました。また、2015（平成 27）年 5 月には当社のコーポレートブランドである『SAIEI SILK』の「妖精の羽オーガンジーストール」が、日本ギフト大賞に選ばれました（写真 4）。



写真4：妖精の羽の加賀友禅ストール

当社は海外進出にも取り組んでおり、全製品の約 35%が輸出向けです。約 40 年前からアメリカのブライダル市場に向けて絹織物を輸出してきました。しかし 2008（平成 20）年のリーマンショックで輸出が減少しましたが、ジェトロ（日本貿易振興機

構)の「輸出有望案件発掘支援事業」による支援でヨーロッパのアパレル市場へと販路を広げ、複数の国際的有名ブランドとの取引につながりました。それまでの当社は、1社への依存度が高く、そこからの脱却と新規顧客開拓のために海外に挑戦する必要性がありました。震災をきっかけに放射線への風評被害の払拭^{ふっしょく}に町も積極的に支援をしてくれており、フランス、イタリア、上海、東京での展示会に参加しています。

昨年(2015年)10月は中国で一番権威のあるテキスタイルのコンペティションに出品し、2つの賞を獲得しました。それによって中国での評価がアップし取引の申し出が非常に増えています。また、2013(平成25)年には、コーポレートブランドとしての『SAIEI SILK』、プロダクトブランドとしての『FAIRY FEATHER(妖精の羽)』を商標登録しています。

フェアリー・フェザーが世に出たとき、当時は生地売りだけだったのですが、お客様から三越や伊勢丹に商品の問い合わせが相次ぎ、自ら最終商品を作ることにしました。最初は2012(平成24)年、日本橋三越でフェアリー・フェザーのストールを販売しました。そのとき齋栄織物のタグではあまり認知されなかったため、ブランド戦略として最終商品に限ってコーポレートブランドの『SAIEI SILK』というタグとロゴマークを作りました。お蔭で首都圏ではルミネの受付の制服に『SAIEI SILK』が採用されました。今年(2016年)はポーラ化粧品のパレートの商品や帝国劇場のミュー

ジカル「エリザベート」の衣装全てに当社のシルクが使用されています。また、一昨年(2014年)4月より自社ブランド商品のインターネット販売も開始しました。

同じ製品でもネーミングやストーリーが大切です。製品の背景や想い、どのようにして作っているのか、様々な面を話すと付加価値が生まれます。そのため当社の生地は約400アイテム程ありますが、品番ではなく全てに名前を付けています。

高付加価値の製品への挑戦

ー絹織物産業をもっと元気にしたい

フェアリー・フェザーは、我々の力だけではなく、原料の極細の生糸を作る業者や生糸を撚糸する業者、糸を染める業者、アイロン加工の業者などが一生懸命に協力をして初めて出来上がったものです。そのときに苦労した各社の技術は、今いろいろな面で応用されていると思います。当社もメディアに露出すると、自動車や医療、美容など、様々な所から依頼がきます。iPS細胞の培養用のフィルムなどにも利用されています。アパレルやファッションだけでみると繊維産業は不況産業ですが、NASA(米国航空宇宙局)からも話が来る未来のある産業だと思っています。

しかし、後継者がいないと廃業してしまう会社も多く、特殊な製品の場合、必要な業者を全国規模で探さないといけなくなっており、日本独自のものづくりには厳しい現状があります。我々だけが残っても製品はつくれませんので、撚糸や染色、加工な

ど各工程の業者が産地を形成しないといけません。集積がなくなると地場産業は、生き残ることが難しくなってしまいます。

また、いくら助成金の制度があっても、世界一薄いシルクへの挑戦や世界の展示会への参加は企業や担当者のやる気がないとできません。ジェットロの支援の際には、机上の勉強だけではなく、実際に発注があったので実践で様々なことを習得できたのは幸運でした。輸出の書類作成や貿易保険など苦勞はたくさんありましたが、お蔭様で発注や出荷から代金の回収までの手続きを全て自社でできるようになりました。

これからもいろいろな支援をいただきながら、シルクの欠点を改善した、取り扱いやすい素材の研究開発に取り組んでいくつもりです。例えば、絹は洗えませんが、自分で洗えて、シワになりにくい、ストレッチ性のある素材の開発を今年度中に完成したいと思っています。チャレンジの連続ですが、新しい高付加価値を見いだしていかないと生き残れません。

また、国内だけでなく海外に出て行くこ

とは重要で、市場を見て、種をまくことは必要だと思います。国内の需要は限られているので、単純に需要のあるところに行くということです。

川俣は織物で栄えて形成された町です。京都や北陸の産地では、首長がその歴史と重要性を認識して、予算化して絹織物産業に一定の支援をしています。京都府京丹後市は養蚕の最新の飼育施設を建設して研究所を持つそうです。行政などの支援は産業の集積には必要だと思います。当社が元気になって関連会社も元気になっていければと思っています。

■齋藤泰行（さいとう・やすゆき）の紹介
齋栄織物株式会社 代表取締役

〒960-1406

福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字馬場 6-1

TEL：024-565-2331

FAX：024-565-2838

E-mail：saiei.orimono@nifty.com

HP：http://saiei-orimono.com

新しい養蚕の可能性に取り組んで

株式会社絹工房 養蚕事業部

マネージャー 金子 聡

自分たちで必要な繭を作ろう

自社養蚕の必要性

2014（平成26）年、富岡製糸場が世界文化遺産に登録され、全国各地からの多くの観光客でにぎわい、一時は多くのマスコミ等でその名が知られるようになった群馬県富岡市。富岡製糸場近くにある弊社直営店にも、多くの観光客が来店、弊社主力商品である富岡産シルク配合の化粧品類がお土産として、また、自身のスキンケアで使用されるものとして、お買い求めいただいている（写真1、2）。

主な商品販売方法は、富岡市内での直営店、また県内外での委託販売、そして通信販売である。通信販売でのリピーターは年々着実に増え、今年度で1万人に達した。

また、昨年（2015年）より繊維製品の開発、つまり、富岡シルクを使用した毛布の販売も開始した。これはふるさと納税特典対象にもなり、販売数は約70枚ほどであった。

これらの原料として、富岡産シルクの需要が増加した。原料となる富岡市内で生産される繭の生産量は年々減少してきており、養蚕農家の平均年齢も高くなってきて



写真1：株式会社絹工房本店



写真2：店内での商品説明

いる。

このような状況を基に、今後の弊社での繭の使用量を予測すると、生繭で少なくとも年間2トンである。可能な限り早急、かつ、安定的に、自社で確保する必要がある。このことを踏まえ、弊社では5年ほど前から対策を模索してきた。そこで、「自分たちで必要な繭を作ろう」というシンプルな答えに従い、自社での養蚕を企画したのである。以下、社内での養蚕事業体制の確立の一端を紹介する。

桑畑の確保の難しさ

当然のことながら蚕を飼育するのは桑が必要となる。最初に取りかかったことは桑畑の確保であった。まずは、最近まで養蚕をされていた元農家の方から桑畑を50a借り、数年間手入れのされていなかった桑を剪定し、畑として使える状態にすることから始まった。しかし、そこから同時に桑畑の確保の難しさを知ることになった。弊社の当初の目標は、年間の收繭量を1,200kgとしているが、桑畑50aでは全く不足するために、他の桑畑を探し始めた。しかし、なかなか見つけることは出来なかったのである。そこで、新規に桑畑を造成することを決め、造成地を探すことにしたのだが、これもまた難航したのである。

何故なら、富岡では下仁田^{しもにた}ネギやこんにゃくなどの野菜が多く栽培され、周辺の農薬などの心配があり、そういった環境の中での桑畑の造成は危険すぎたのである。結局、数年かかって山間部の森に囲まれた耕

作放棄地を見つけ、借り受けることになった。そこをようやく造成し、苗を植えることができたのである。それと併せて近隣に蚕室となる建物を借り受け、改築し2015（平成27）年より蚕の飼育を始めることになったのである（写真3、4）。



写真3：桑苗を植える作業



写真4：4齢起蚕と新規飼育台

新しい養蚕方法の模索

養蚕を本格的に行うにあたって、ここでも問題に直面した。必要な資材や道具などの入手である。養蚕資材は製造されていないために新品を簡単には手に入れにくい。それで農家などから不要になった資材をいただくのが唯一の方法であり、当然のことながら、私も資材の確保に市内を走り回りまわった。この資材入手の問題を認識した

時に、養蚕というものをするには「過去」の資材が必要になるということ、つまり、将来的な資材調達、飼育システムなどを先に考えないと、将来的に続かないだろうということに思い至った時でもあった。

そこで資材や道具を見直し、可能なものは代用し、または新規で作ることにした。従来のを単純にリメイクするのではなく、資材一つ一つが持っている意味や利便性を考え直し、他に適した素材や、入手が容易な資材、それらの活用方法の研究から弊社の本当の養蚕が始まった。例えば、現代の日本人の平均的な体格を考えると、従来の飼育台では給桑や、上簇、飼育後の後片付けなどの中腰の姿勢は腰などに負担が大きくかかる。では、これらの作業を身体的な負担をかけずにするにはどうしたら良いか。企業として養蚕業務を行っていく上で、身体的負担は長期就業に大きな妨げになってくる可能性がある。人間の作業には限界があり、それを改善できる方法を常に考えていく。新しい養蚕、企業養蚕を行うことのためには、一つの方法や視点だけではなく、広い視野で養蚕を見ていくことも必要なのかもしれない。

このように、養蚕というものを時代の変化に合わせ、そのための環境づくりや新たな方法を模索し続けることを重要なテーマとして、企業養蚕を進めているところである。また、弊社で養蚕事業に従事する社員は年代が若いことから、彼らにとって受け入れやすい方法や資材、そして養蚕に付随する業務を新しい視点での見直しや検討を

行い、飼育などの養蚕体系を常に更新し続けることが、企業養蚕の今後につながるのではないだろうか。

長期的に持続可能な養蚕

昨年（2015年）、企業養蚕のスタートを切ったが、多くの課題がある。桑畑、飼育・桑園管理資材、そして企業として就労環境や社員の目的意識など多岐にわたる様々な事項である。そして、企業として養蚕を行っていく上での経営目標は、長期的に持続可能な養蚕を行うということである。つまり、養蚕に取り組む時には、「100年後にも事業が継続しているか」を常に念頭に置いておく必要がある。

長期的に継続させるには何が必要か、何を考えるべきなのか。人材育成も大きな課題であり、更には養蚕業務のマニュアル化をなしえるかどうかにも含まれる。私が経験してきた中では、蚕は温度や湿度、環境によって飼育日数の変動があり、繭の状態（品質、形状）にも影響が出るということを知った。そして飼育蚕期ごとに、飼育方法や蚕室環境対策など、蚕と向き合い、数年を経験しないと見えてこない部分があることである。

しかし、それでは年度ごとに、また天候等や桑の状態、飼育場所等の環境が原因で生産量に変動することもあるだろう。そうなるに常に安定した繭の確保ができない可能性もある。企業としては、この変動要因を可能な限り除去し、どのような理由にせよ、収繭が出来なかったということは避け

なければならない。また、課題の一つに、急な欠員の発生時の対処を考えなくてはならない。その解決策として「誰でも出来る養蚕」の確立のための養蚕作業のマニュアル化、欠員の発生時の対処方法や、養蚕期間外の業務の確保など、総合的な企業のための養蚕システムの構築が緊急な課題である。

養蚕事業の今後と経営上の位置づけ

弊社のシルク製品のリピーターからの声に「今後ともこの商品が欲しい」という声を多くいただき、製造販売に携わる者としてこれ以上にありがたいことはないと感じている。この声に応えるためにも、養蚕事業を安定して継続させ、更には新商品の開発、シルクの持つ機能性を今以上に多くの方々への提案、養蚕に関連する事業の企画、検証などを行い、シルクの可能性を今以上に広めることを目指したいと思っている。そのために、今年度（2016年）は繭の生産量480kgを計画している。そして来年度

（2017年）は生産量を1,200kgの目標を達成するために、現在、桑園や飼育施設などの増設について、より具体的な検討を行っているところである。

弊社ではシルクと私たち人間の関わる機会を増やし、シルクの素晴らしさ、シルクの長所、シルクの活用などの提案を出来る場を、直営店や通信販売で持っている。この手段を大切に活用し、新たなシルク商品の開発により商品提案していく。これに必要な繭を確保するのが、養蚕事業の重要な役割であると位置付けている。

■金子聡（かねこ・さとし）の紹介

株式会社絹工房 養蚕事業部マネージャー

〒370-2316

群馬県富岡市富岡 1152

TEL：0274-67-5023

FAX：0274-67-7251

Mail：info@kinukoubou.com

HP：http://www.kinukoubou.com/

シルクの足跡を伝える～常田館製糸場活動報告

NPO 法人絹の文化・蚕都常田館

小駒 はるみ

はじめに

2016（平成28）年8月23日（火）、笠原工業株式会社（長野県上田市、常田館製糸場を所有）は1964（昭和39）年以來48年ぶり2度目の行幸啓を賜りました（図1）。同月20日（土）の信州大学繊維学部（旧上田蚕糸専門学校）に連続するご来訪は、当地信州上田地域にとって非常な名誉であると同時に、当施設・常田館製糸場など地元地域の蚕糸業の意義を改めて認識することにもなりました。



図1：行幸啓の一コマ。

製糸場模型を前に、解説をお聞きになる両陛下（解説は笠原工業（株）笠原一洋会長。写真提供：長野県）

1 産業遺産の公開と活用

常田館製糸場は、1900（明治33）年に長野県小県郡上田町（現上田市）に誕生した製糸場です。現在はずでに製糸工場としての役割を終了してはいますが、それを前身とする現笠原工業（株）の建物等が、いわゆる産業遺産に位置付けられています。旧製糸場時代の敷地に繭倉庫など明治・大正期の建物15棟が現存、一部が2007（平成19）年に経済産業省によって近代化産業遺産に認定されると、2012（平成24）年には7棟が「笠原工業旧常田館製糸場施設」として国の重要文化財の指定を受けています（図2）。

翌年（2013年）「NPO法人絹の文化・蚕都常田館」が、施設の所有者である笠原工業（株）の全面的なご協力を得て設立されました。文化財保護法がその公開等の「文化的な活用」を推奨している点を踏まえ、施設の調査、見学者の受け入れ、歴史的建物の活用等に努めています。昨年（2015年）は、見学をはじめ各種イベントなどのために約3,000人が施設を訪れています。

また、かつて信州上田は、江戸期以来の

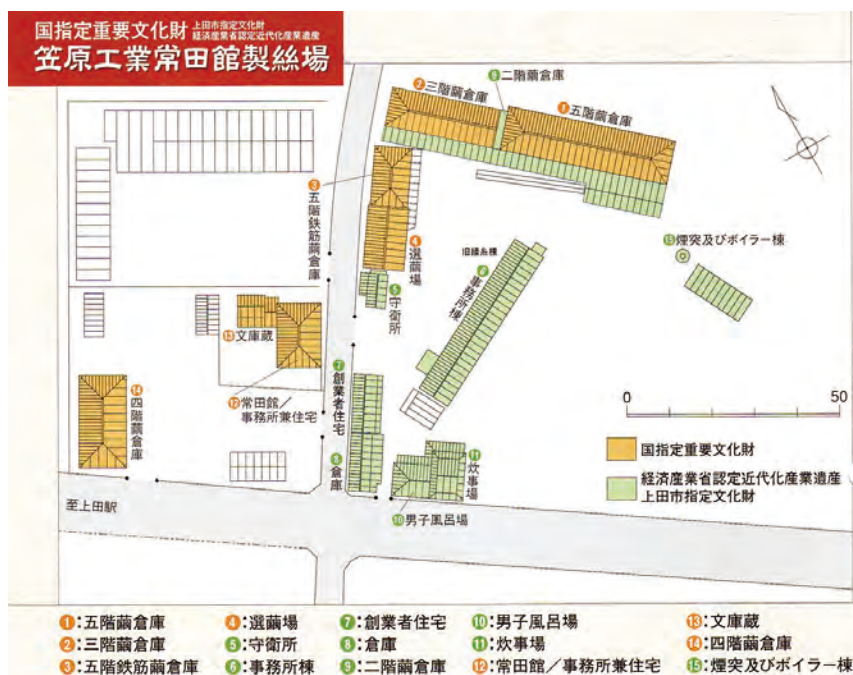


図 2：見学者用施設案内

蚕糸業を基盤とした町でした。当施設を含め、上田紬や近隣の上田蚕種株式会社、信州大学繊維学部をその象徴とし、繁栄の‘今’につながる足跡を発信し続けることで、郷土愛の醸成に貢献したいと考えています。本稿は、そうした目的を持つ施設の管理団体NPO法人絹の文化・蚕都常田館の活動報告です。

2 施設調査

文化財は適切な保存とともにその活用が求められています。文化庁などの協力で施設について製糸業、歴史及び建築の専門家による調査が行われ、防災計画を含む保存管理、活用計画などが策定されました。

「重要文化財（建造物）は、国内で唯一残存する木造五階建の繭倉庫（図3、4）をはじめとする、繭の乾燥または貯蔵のための倉庫4棟、乾燥させた繭を選り分け

るための施設である選繭場^{せんけんじょう}1棟、創業者の生活の場であった事務所兼住宅及び文庫蔵各1棟の計7棟で構成される。（中略）この他に製糸場時代の建物として守衛所、事務所棟、創業者住宅、倉庫、二階建繭倉、※風呂場、食堂棟、炊事場、煙突、ボイラー棟が残存し、市の文化財指定を受けている。」

※但し、風呂場・食堂棟・炊事場については、残念ながら道路拡張に伴う曳家によって内部の設備が失われてしまいました。

また、これにより「木造五階繭倉庫」など笠原工業（株）構内に残る製糸場遺産が詳細に把握されました。規模が大きいばかりでなく内部は繭の保存技術の変遷をうかがえる造りとなっていることがわかりました。「五階繭倉庫は繭の乾燥施設として建設された多窓式の繭倉庫である。別の建物で土室を用いて殺蛹^{さつよう}し、本繭倉庫で風を

利用した自然繭乾燥法を行っていたとされる。前者は図4のように、各階の壁面に設けられた北側9箇所、南側11か所（略）の開口部を利用し、風の通り道を確保することで繭の乾燥を行い、棚の周囲には通路及び作業用のスペースが確保されていた。1914（大正3）年に現在の五階繭倉庫の東側に帯川式の乾燥建物が2棟建てられたことにより本繭倉庫の乾燥室としての役割を終えたと思われる。その後、操業停止時までは乾燥した繭の貯蔵倉庫として使用された。」



図3：木造五階建繭倉庫外観

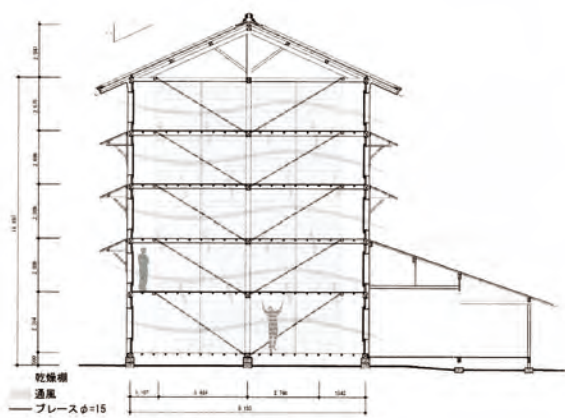


図4：木造五階建繭倉庫調査資料より。
内部に風の通り道がある。

3 見学者の受け入れ（施設ツアー）

文化財活用の一貫として、団体見学を対象に施設ツアーを実施しています。以前は郷土史の勉強会や県内行政、シルク関係者による視察が主でしたが、富岡製糸場の世界遺産登録以降は、一般の企業や市民団体が研修及び慰安旅行先として立寄るケースが目立っています。したがって案内によって専門的な知識を持たなくてもなるべくわかりやすくなるよう、まずは生糸とは何か、製糸場とは何か、といったことから理解をいただきます。そして理想を言えば、見学者が建物を巡回してゆく間に建物同士のつながりから製糸業の流れをとらえられるような形を目指しています。さらに、製糸場をはじめとする蚕糸業が日本近代化のために果たしてきた役割について伝え、当時の社会的な背景にも触れるようにしています。

4 施設の活用事例

団体及び個人見学者の受け入れの他に、施設の文化的な活用を促進する各種イベントの依頼に応じています。地域内外で活躍中の地元工芸作家による展示会は旧繰糸場そうしじょうで、きものワークショップは施設全体を会場にして開催され、いずれも定例化しつつあります。また繭倉庫では、昨年（2015年）は上田市教育委員会の企画による屋外コンサートが、本年（2016年）は民間団体主催の屋内コンサートが開かれ、いずれも盛況でした（図5）。歴史的な建物群に包まれたイベントには、年代の持つ独特の雰囲気

があり、主催者来場者ともにご好評をいただいています。

見学を目的に製糸場を訪れる方々は、製糸業や歴史文化についてすでに一定の理解を持っている場合がほとんどです。それに対し、このような一般向けイベントは、従来あまり接点のなかった層への来訪の呼びかけとなっています。学習的になりがちな施設見学とはまた違った‘楽しさ’を演出できればと思います。とはいえこの場合でも、主催者側が来場者向け施設ツアーを希望することが多いため、当方としても製糸場と文化財について積極的な案内をしています。



図5：屋外コンサート。ジャズボーカルを楽しむ来場者。

5 情報の発信

更に、当地信州上田は、上田紬の生産や上田蚕種（株）の業務に見られるように、蚕種業さんしゅぎょうを起点に蚕糸業が繁栄した土地柄です。そうした伝統を市民レベルでも受け継ごうと、繭をコンセプトにした創作クラブ「繭友」（信州大学繊維学部・梶浦善太会長）が発足しました。すでに当施設などを会場

に同クラブによる真綿づくり、繰糸などのデモンストレーションを実施しています。地域の家内文化再生の試みとして浸透が期待されます（図6）。



図6：屋内常設展示「ランプシェード」。製作者による解説風景。

おわりに

「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と世界文化遺産登録が相次ぎ、産業遺産への一般の関心が高まっています。常田館製糸場においても見学者は年々増加の傾向にあります。一方で産業遺産は、特にその所有者となる事業が継続している場合、ひきつづき施設が現役利用されていたり、遺産として保存をしつつも業務への妨げを避けるため、やむを得ず公開を制限している事業体も少なくありません。

幸いにも当施設は母体・笠原工業（株）から公開の協力をいただいておりますが、事業あつての文化財施設であることに変わりはなく、企業の、現行業務と文化活動とのバランスの見極めが依然課題であるといえます。また現場では日々、限られた経費や

マンパワーの中で、多方面にわたる文化事業の高度な目的を達成することの難しさを感じています。

◇ご案内「信州上田の基盤、城下町と蚕糸業」

東京より1時間半余。新幹線上田駅を出ると勇ましい騎馬武者像が出迎えてくれます。戦国を代表する武将・真田幸村です。駅前を横切る道を、左へ向かうと、真田氏が築いた上田城に到達します。常田館製糸場は右手。道を行けばほどなく時代を感じさせる白壁の建物が目に入るようになります。

城と蚕糸、両者はそれぞれの時代で信州上田地域の基盤を作りました。城は要となって城下町を形成し、蚕糸はその後の近代的な街づくりの原動力として貢献しています。

■小駒はるみ（おごま・はるみ）の紹介

NPO法人絹の文化・蚕都常田館事務局

〒386-0018

長野県上田市常田1-10-3

笠原工業（株）内

TEL：0268-26-7005

FAX：0268-25-1594

HP：<http://www.kasahara.co.jp>

タイ国訪問記

一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所

所 長 新保 博

主任研究員 持田裕司

2016(平成28)年8月18日から一週間、暑い日本から更に暑いタイ国に出張してきました。昨年8月、タイ国農業・協同組合省養蚕局(The Queen Sirikit Department of Sericulture, Ministry of Agriculture and Cooperatives、以下「QSDS」と言います。)の局長以下数名が蚕遺伝資源の管理に関する視察のために来所された折、卵巣や精子などの生殖細胞を凍結して蚕遺伝資源を保存する方法についても紹介しました。ほぼ一年後の今年5月にタイ国生物多様性産業開発機構(Biodiversity-Based Economy Development Office、以下「BEDO」と言います。)の会頭(先の農業・協同組合大臣)以下数名が来所され、蚕遺伝資源の保存に関して意見交換を行った際に、本年8月に開催されるBEDO主催の国際ワークショップ(研究集会)で蚕遺伝資源の凍結保存技術の開発に関する講演と関連する実演を行うよう要請されました。こうしたいきさつがあって、タイ国に行くことになったという次第です。

BEDO 設立9周年記念フォーラム及び国際ワークショップへの参加

BEDOは2007(平成19)年に設立された、タイ国天然資源・環境省に属する公的機関です。その役割は、生物多様性の保存と利用並びに生物多様性に基づく経済発展に寄与することであり、設立されてから9年間、地域社会の知恵の持続可能な使用で地域社会のために雇用と所得を産み出すのを促進し、また、地域社会と民間企業が持続可能な生物多様性の利用と保存の原則を日常的に具体化するのを支援してきた組織です。関連する分野における国際協力の支援や企業間の橋渡しにも積極的に取り組んでいるようです。

設立9周年にあたり、これまでの事業の成功と今後の更なる発展を期して、「経済的に重要な遺伝資源の生物多様性、生物保存・保護及びバイオ銀行(Biodiversity, Biopreservation and Biobanking of Economically Important Genetic Resources)」に関する記念フォーラムと国際ワークショップがバンコクで8月19日から23日まで

開催されました。10カ国16名の講演者が招待され、蚕は経済的に重要な遺伝資源の一つということで、私たちも招待されたようです。

19日の開会式は、シリントン王女のご臨席の下、盛大に催されました。2007（平成19）年にノーベル平和賞を受賞された米国モンタナ大学の Steven W. Running 博士が基調講演を行い、「陸域生物圏の生物多様性及び生態系サービス（Ecosystem services、生物・生態系に由来し、人類の利益になる機能（サービス）のこと）に及ぼす地球気候変動の影響」という興味深い話をされましたが、正直なところ私自身は半分くらい理解できたかなといったところでした。

この日は、朝の7時過ぎに海外からの招待講演者と一緒にホテルを出発し、8時前には会場に到着。受付、健康チェック（王女に近づく人は高熱があるかをチェックするのだとのこと）、王女への贈り物の受付などを済ませ、控え室に入ってホッと一息つく間もなく、王女との記念撮影の位置の確認などのリハーサルが続き、開会式が始まる9時に席に着いたときにはすでに軽い疲労感を覚えていました。王女ご臨席ということで、関係者も緊張感で一杯（図1、2）。

王室に対するタイ国民の敬愛ぶりはつとに有名ですが、王女への贈り物を手にした人々の多さと熱狂ぶりを目の当たりにして、その敬愛ぶりがよくわかりました。私たちは大日本蚕糸会からの贈り物として、



図1：開会式後にシリントン王女とご一緒に記念撮影
前列右端：持田、右端から4番目：新保



図2：基調講演を行った2007（平成19）年
ノーベル平和賞受賞者 Steven W. Running 博士と一緒に

純国産の絹製品を持参しました。外国からの招待講演者には、会場からお帰りになる最終スポットで贈り物をお渡しできるよう配慮していただけだったので、贈り物をお目にかけてながら少し説明を付け加えることもできました（図3）。

20日、21日はエクスカーション（遠足）でチェンマイへ。週末ということもあって小旅行気分で出かけたのですが、あに図らんやししっかりと勉強させられました。広大な「王妃の植物園（Queen Sirikit Botanic Garden）」を見学した後、チェン



図3：大日本蚕糸会からの贈り物をシリントン王女に説明する新保

マイ大学の科学・技術パーク（Science and Technology Park、CMU STeP）で意見交換。CMU STeP は国内外の大学と企業との間の重要な繋がりを作り出し、更に維持することを目的とした組織であり、所長はじめ全ての若いスタッフが使命感に燃え、いきいきと働いているのが印象的でした。

21日はたった半日でしたが、古い寺院など古都チェンマイの魅力に触れることができました（図4）。



図4：チェンマイの寺院

ワークショップでは、「バイオ銀行の運営に関する国の政策と戦略」、「長期間におけるバイオ銀行持続性」、「植物の凍結保存」

及び「動物の凍結保存と利用」の4つのセッションに加えて、企業向けのセッションの計5つのテーマについて講演が行われました。私たちは、動物の凍結保存と利用のセッションの中で、「凍結生殖細胞を用いたカイコ系統の長期保存技術の開発」について報告しました。タイ国養蚕局の各地のセンターから参加した人たちは勿論、ニワトリの細胞凍結保存プロジェクトのメンバーからも大変興味深い内容であるという評価をいただきました（図5）。



図5：ワークショップで講演する新保

しかし、講演以上に大きな反響があったのは卵巣の摘出・移植の実演でした。手術を行う持田の手元を食い入るようにのぞき込む者や、矢継ぎ早に質問を投げかけてくる者など、皆一様に驚きの声を上げていました。また、実演に必要な器具の準備ができていないなどの不測の事態に備え、行く前に卵巣の凍結、精子の凍結及び人工授精のビデオを作製しておいたので、それも実演と同時に流したところ、多くの人がスクリーンに釘付けになっていました。百聞は一見にしかず。新保は、「すっかり美味し

いところを取られてしまったな。若いときには私だってあれくらいの手術はできたんだ・・・」と、ちょっぴり寂しさと悔しさが入り交じった気持ちでその光景を眺めていました（図6）。



図6：ワークショップで卵巣の摘出・移植手術を実演する持田と説明する新保

QSDS への訪問

ワークショップが終了した翌日、昨年8月の訪問に対するお礼も兼ねて、QSDSを訪問しました。玄関を入ると、正面に国王、王妃の大きな写真が飾られており、改めて王室への敬愛ぶりを実感しました。タイ国の家蚕繭及び家蚕生糸の生産量はそれぞれ約4,500トン及び約650トン（約11,000俵）で、いずれも中国、インド、ウズベキスタンに次いで、世界第4位ぐらいの位置を占めています。QSDSは、こうしたタイ国の蚕糸業を振興し、発展させるために、2009（平成21）年に設立され、その設立に尽力された王妃の名前が冠されています（図7）。

QSDSは、庶務、研究開発、保護及び基準適合性評価、開発及び技術移転の4つの



図7：タイ国農業・協同組合省養蚕局にて

部門の他に、数カ所の地方オフィス、各地にある20カ所ほどのセンターが連携して業務を推進しています。業務の一つとして、蚕業技術研究所の田中さんのチームでかつて研修を受けたMs. Pornpinee Boonbundal（愛称ノックさん）が中心となって、タイ国の蚕、桑、染料植物の保存に取り組んでいます。タイ国には、蚕の系統が約450種（多化性と二化性がほぼ半数ずつ）、桑の系統が約250種保存されていますが、複数の箇所では保存されているため、ダブリがあるのではないかとということで、DNA-フィンガープリント法による同定作業が進められています。その作業はまだ道半ばといったところですが、蚕、桑それぞれ60系統のフィンガープリントの結果及び卵、幼虫、繭、あるいは樹形、葉の形などの写真を掲載した立派な冊子が作られていました。私

たちもお土産にいただきましたが、タイ語で書かれているため読めないのが残念です。それでも、優れた資料だということは解ります。

わが国では、「天皇陛下は、わが国の農耕文化の中心である稲作について、昭和天皇のお始めになった行事をお引継ぎになりました。春には種籾^{たねもみ}をおまきになり、初夏には田植えをなさり、秋には稲刈りをなさっています。皇后陛下は、昭憲皇太后が明治4年にお始めになったご養蚕^{こうじゆん}を香淳皇后からお引継ぎになりました。皇居内の紅葉山御養蚕所^{もみじやま}で、春から初夏にかけて、掃立て・給桑^{はきた きゆうそう}・上簇^{じようぞく}、繭かきなど養蚕の各段階の作業にたずさわっておられます」(宮内庁ホームページより抜粋)。QSDSの方の話では、タイ国でも、国王は稲作、王妃は養蚕の振興に関わっておられるとのことでした。道路一つ隔てて、QSDSの向かい側に稲作関係の部局があると聞いたので、「養蚕局にはシリキット王妃の名前が冠されているが、稲作関係の部局には国王の名前が冠されているのですか」と尋ねたところ、「冠されてはいません」という答が返ってきました。その時の彼女の顔が少し自慢そうに見えたのは気のせいだったのでしょうか。

QSDSでは、男性職員に会うことはほとんどありませんでした。ノックさん達も、この職場に来ても男性には会えない、女性しかいないからと言っていました。バンコクの職場だけではなく、各地のセンターから今回のワークショップに参加した人た

ちも全てが女性でした。いきいきと働く姿を見ていると素晴らしいなと思いましたが、「私たちは『レディー』ではなく、『レディー・メン』だ」と言って明るく笑う彼女たちに、^{うなず}頷いてよいものやら一瞬戸惑ってしまいました。

ホテルと会場の往復だけでほとんどバンコク市内を観光することはできませんでしたが、一つだけ紹介します。クイーンシリキットテキスタイル博物館(Queen Sirikit Museum of Textiles)です。ツアーのコースには入っていないと思いますが、王宮に隣接したところにある小さな博物館です。中には、バルマンの創業者ピエール・バルマン(Pierre Balmain)がデザインした王妃のドレスなどが展示されており、とても見る価値があると思います。王妃がシルク産業の伝統を考え、努力してこられたことがよくわかる、まさに王室御用達のシルク博物館というところでしょうか(図8)。



図8：クイーンシリキットテキスタイル博物館にて

最後に、^{とやまかめたろう}外山亀太郎先生のことについて一言。外山先生は、東京帝国大学農科大学の助教授であった1902（明治35）年～1905（明治38）年にかけてシャム国（現在のタイ国）の政府顧問として^{しょうへい}招聘され、現地で養蚕指導に当たりながら、蚕の交配実験を行い、遠縁の品種をかけあわせると、両親よりも繭の重さや強健性などが優れた一代雑種が得られることを発見しました。世界に先駆けて実用化した蚕の一代雑種の利用は、わが国の蚕糸業を世界一に押し上げる原動力になったとされています。車で移動中、一緒に乗っていたノックさんが、「外山先生はタイ国から帰られた後、インドに行かれたという話があるが本当か」と尋ねてきました。瞬間的に、モンゴル帝国の創始者であるチンギスハンが、衣川の戦

いで自害したという源義経と同一人物であるという伝説が脳裏をかすめました。突飛な話かもしれませんが、外山先生はタイ国の関係者の間ではすでに伝説の人になっているのかと勝手に想像し、妙に嬉しくなっていました。

仕事を終え、空港で帰りの便の出発を待っていると、夜8時頃、突然の激しい雷雨。しばらくすると高い天井から雨水がポタリ。結局、飛行機は2時間以上遅れて出発。最後の最後に、熱帯のもの凄い雷雨に見舞われつつも、無事帰国。

今回、私たちを招待して下さった BEDO、手厚くもてなして下さった QSDS、そして出張に際していろいろ配慮をしていただいた大日本蚕糸会に対して心より感謝申し上げます。

米沢織物歴史資料館

—産地の歴史を伝える—

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

山形県の米沢市は人口9万人弱、つとに「米沢織」^{よねざわおり}「置賜紬」^{おいたまつむぎ}で有名であるが、市の中心部に米織会館がある。シルク遺産としての観点からは、この建物自体と2階の織物歴史資料館に展示・保存されているおよそ500点の繊維関係の史料が重要だ。

外観を大きく変えた織物会館

先ず、米織会館だが、1922（大正11）年の竣工で、木造・モルタル2階建て、床面積は548㎡で、外観は桐生織物会館（1934（昭和9）年完成）等と類似の印象を与える。当時の建物は、写真1に示すように、装飾のまことに美しい建物で、市内

屈指の西洋建築であった。ところが、現在の外観はというと、写真2の通りで、同一建築物とは思えない程、外壁の改修が行われており、内部も、特に1階は展示・物販施設として大幅に改造されている。

全体的に必ずしも豪華なしつらえではないが、しかし、よく観察すると、玄関、階段室、折り上げ式の高い天井、木製の上げ下げ式窓やドア、その金具類等には往時を十分偲^{しの}ばせるものが少なくない。とりわけ、2階の貴賓室は、1925（大正14）年に昭和天皇・・当時は皇太子殿下・・をお迎えした由緒と格式のあるもの。また、階段室のステンドグラスの窓は完成当時の美しさ



大正時代の織物組合（現在の米織別館）

写真1：大正11年竣工当時の米織会館



写真2：現在の米織会館

写真提供は同館、以下同じ。



写真3：米織会館階段室のステンドグラス

を今に伝えている（写真3）。

ただ、惜しまれるのは、このように外装、館内ともに大幅な改修が施されたためもあって、文化財の指定は受けていない。しかし、建築後90年を超える明治以降の米沢の産業を代表する建物であるだけに、国の登録有形文化財に指定するなどの対策が望

まれるのではないだろうか。

貴重な展示史料

米織会館の2階は米沢織物歴史資料館になっており、1979（昭和54）年のオープン。年間入館者は2千人を超えている。その一角には、養蚕・製糸・織布関係の各種史料が展示されている。そのうち、機械用具類の概要は次表の通りである。このほかにも、織物見本帳、商標チョップ等の米沢産地隆盛期の史料が展示されている。さらに、米沢で作られ使用された江戸時代から現代までの和装、洋装の衣類も多数ある。

産業遺産として目立つ展示物としては、入口に立つ大型の整経台（写真4）、そしてこれまた大型の八丁撚糸機、さらに弓たな仕掛け織機（写真5）、地機^{じぼた}などがある。いずれも明治から大正、そして戦前昭和期までの使い込んだ機械器具であり、米沢産地の歴史を今日に伝えている。なお、これらの展示物のほかに、多くが収蔵されている。



写真4：米織資料館に展示されている整経台



写真5：弓たな仕掛け織機

米沢織物歴史資料館の主要な機械用具の展示物

名 称	備 考
整経台	木製、(縦 173 cm、幅 137 cm)
弓たな仕掛け織機	木製、(長さ 320 cm 幅 114 cm 高さ 186 cm)
地機	木製、古来の手機、いざり機、神代機、下機ともいう。
八丁撚糸機	
高機	木製、(長さ 200 cm 幅 135 cm 高さ 180 cm)
<以上のほかに、牛首、芋ひき台、糸車、きぬた、植物染料、各種糸見本、紅花染糸、植物染料で染めた糸や江戸時代のきものなど>	

東北で最大の織物産地

米沢産地の歴史は古い。文献に出てくるのは奈良時代であるが、「産業としての形態が整ったのは、上杉鷹山公（18世紀後半）の時代」である。この地に蚕糸織物業が栄えた要因としては、

- ①豪雪地帯なので屋内の仕事に向いていたこと
- ②古来から麻、桑、紅花等の原料が産出したこと
- ③鷹山公を初めとする積極性と根気に富んだ米沢人の気性が指摘されている。

当産地も他の例にもれず栄枯盛衰を繰り返し、昭和40年代にはピークを迎えた。かつては出荷額も200億円を大きく超えたが、現在は40～50億円に縮小している。にもかかわらず、素材的（天然繊維、化学繊維を問わず）にも、また製品的（テキスタイル、和装・洋装、製品を問わず）にも何でもこなして供給出来る、いわば「繊維総合産地」として東北では最大規模、全国的にも屈指の規模を有している。2007（平成19）年には「米沢織」が地域団体商標に登録され、生産から流通までの諸機能を域内に備えた産地として今日に至って

る。

なお、上杉記念館（旧上杉伯爵邸）の庭園内には、比較的若い桑の木がある（写真6）。これは鷹山公が領民に配った原木から接ぎ木して植えた由緒あるもので、これもシルク遺産である。因みに、米沢産地の歴史について、同資料館発行の小冊子『米沢織の歩み』（1986（昭和61）年、39頁）に詳しい。



写真6：上杉鷹山公ゆかりの桑樹。筆者撮影。

我が国で人絹を初めて発明

米沢で外せないのが、山形大学工学部に保存されている人造絹糸開発関係史料だ。日本化学会の「化学遺産」に認定されている。周知のように、人造絹糸（artificial silk、レーヨン糸）を我が国で始めて開発したのは米沢高等工業学校の秦逸三^{はたいつぞう}氏であるが、その工業化は帝国人造絹糸（現在の（株）帝人）で行われた。その関連の貴重な史料が同大学構内にある旧米沢高等工業学校本館（国の重要文化財）の秦逸三教授記念展示室で保存展示されている。

今回の取材では、米沢織物工業協同組合・米沢繊維協議会の佐藤伸二事務長に大変お世話になりました。くまなくご案内頂いた上に、貴重な報告書類と写真をご提供頂きました。ここに記して感謝致します。

◇所在地：〒 992-0039 山形県米沢市
門東町 1-1-87

◇電話：0238-23-3525

◇アクセス：JR 奥羽本線・米沢駅から徒歩
で約 20 分、車で 5 分

◇開館時間：9:30 ～ 16:30

◇休館日：土日祝日、年末年始（12月～3月）
無休（4月～11月）

◇入館料：大人 300 円、小人 200 円

蚕の遺伝子工学の幕開け —田島弥太郎先生—

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

蚕の雌雄鑑別

筆者は「蚕学研究室」にいるため、時々「蚕の話」を頼まれる。先日、ある市民講座を受け持ったところ、受講者の老婦人から「昔、私は蚕の雌雄を分けていました」と声をかけられた。そして図1のような修了証書を見せていただいた。「修了証書 何某 第七回蚕児雌雄鑑別法講習ヲ修了セシコトヲ証ス 昭和三十年五月十九日 神奈川県蚕種共同組合理事長 瀬戸徳孝」

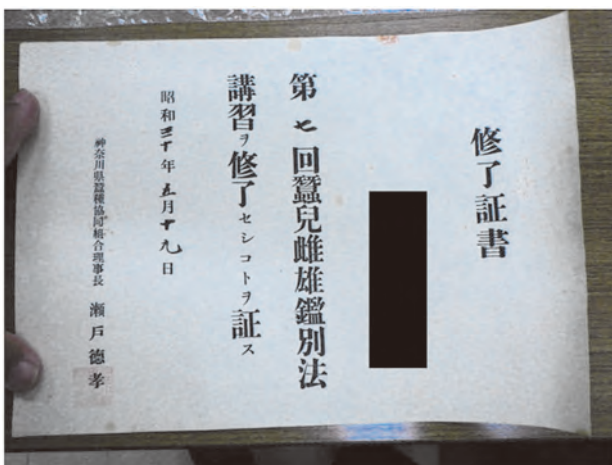


図1：蚕児雌雄鑑別法講習の修了証書

かつて蚕の雌雄鑑別士がいたことは蚕種屋さんから聞いたことはあったが、実際に雌雄鑑別を行っていた人にお会いしたのは今回初めてであった。いろいろ尋ねてみたいことがあった。「幼虫の雌雄鑑別はワリの良い仕事だったのか?」「大変だったか?」「どんな人達が雌雄鑑別士になっていたのか?」「いつまで続いたのか?」等々。老婦人曰く、残念ながら、「半世紀以上の前のことなので幼虫の尾部腹側の所で雌雄を分けていたことしか覚えていない」とのこと。ただ、修了証書を大切に保管されておられたので悪い思い出ではなかったことは確かだろう。蛹期ではなく、幼虫期で雌雄鑑別していたのは一寸意外であった。幼虫の尾部腹側の点での雌雄鑑別は脱皮して1、2日しか見えず、また一頭ずつ尾部を見て分けなくてはならない。図2を見ていただければ分かるように慣れていないと大変見難い。

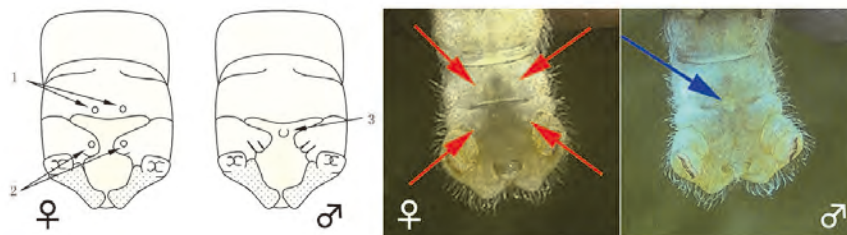


図2：幼虫の雌雄鑑別 模式図(左図)は、(一財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所HP(鶴井祐治作画)より。5齢起蚕から2日目位まで♀では石渡氏腺(1, 2)、♂ではヘラルド氏腺(3)が判別できる。鱗翅目の幼虫は共通してこの腺で雌雄を分けることができる。

それに対して蛹の雌雄鑑別では蛹期を通して見分けることができる（図3）。蛾になる前に雌雄を分ければ良いのだから蛹期の方が楽で、効率的だろう。

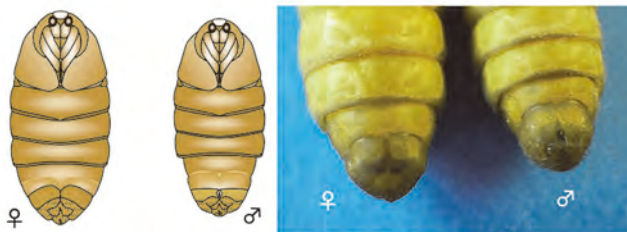


図3：蛹の雌雄鑑別 左♀、右♂。
模式図（左図）は、（一財）大日本蚕糸会
蚕業技術研究所HP（鶴井祐治作画）より。

蛹では化蛹後から羽化直前まで判別できる。蛹期間は25℃で約10日間あるので、その間に繭を切り、中から蛹を取り出して雌雄を分けることができる。幼虫での雌雄鑑別よりは楽ではあるが、やはり繭を一個一個切開し、中の蛹を取り出して、尾部を見なければならぬので面倒は面倒である。時々「繭から蛹を出しても大丈夫？」「死なないの？」と尋ねられることがある。虫によっては繭から出すと上手く羽化できないことがあるが、蚕は問題なく羽化できる。ただし蛾は排尿する。繭があると繭が尿を吸い取ってくれる。繭から出して蛹がむき出しの状態だと、先に羽化した蛾がした尿が蛹にかかることがある。大量の尿をかけられた蛹は羽化しにくくなる。筆者は千切った新聞紙を入れておく。新聞紙は尿を吸い取ってくれるので残った蛹に影響がなくなる。

蚕は世界で初めての^{ざっしゅきょうせい}雑種強勢利用

さて、では何故蚕の雌雄を分ける必要があったのか。それは大正期から始まった^{こうざっしゅ}交雑種の利用のためである。1906（明治39）年^{とやまかめたろう}に外山亀太郎先生が交雑種の利用を提唱された。蚕では2つの品種（系統）間の交雑で、雑種強勢が強く現れる。交雑種は親系統より大きくなるだけでなく、遺伝的組成も各個体同一となることから幼虫経過、繭の大きさもよく揃う。このため、交雑種の飼育が進められ、1930（昭和5）年には農家で飼育されている蚕はほぼ100%交雑種となった。現在ではトウモロコシ、ナス、カボチャなど多くの農作物が交雑種であるが、その一番に実用化したのが蚕である（シルクレポート No.45,p17-22）。

A系統とB系統の交雑種の卵を作るためには、当たり前だがA系統のメス（♀）蛾とB系統のオス（♂）蛾が、またはその逆のA系統の♂蛾とB系統の♀蛾が必要になる（図4）。

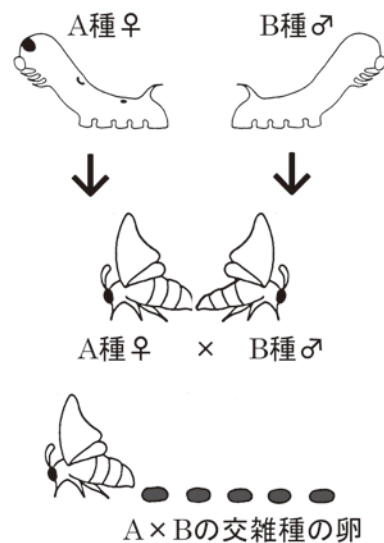


図4：交雑種の作り方（1）
A系統の♀蛾とB系統の♂蛾を交尾させ、
産卵させると交雑種の卵が産卵される。

これまた当たり前の話だが、A系統にもB系統にも雌雄がある。カイコの♂蛾は近くに♀蛾が居るとその♀の性フェロモンに反応してすぐ交尾行動をとり、すぐ近くの♀蛾と交尾する（図5）。つまり、成虫になる前に雌雄を分けておかないとAとBを交雑する前に、A系統ではA×A、B系統ではB×Bで交尾してしまう。Aの♀蛾とBの♂蛾を交尾させようと思っても未交尾の♀蛾と交尾済の♂蛾は区別ができない。既にA同士で交尾してしまった場合、交雑種の卵が得られない（図6）。放っておいては交雑種ができない。成虫になる前に、雌雄を分けておく必要がある。



図5 雌雄鑑別せずに発蛾させた場合
その場で雌雄が交尾する。

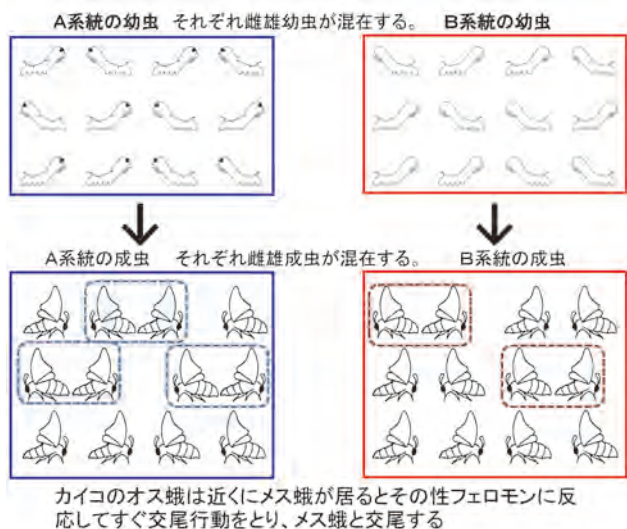


図6：雌雄鑑別しない場合
左向きが♀、右向きが♂

雌雄を蛾になる前に分けておけば、A系統の♀蛾とB系統の♂蛾を、B系統の♀蛾とA系統の♂蛾を交尾させることができる。そして、それぞれの♀蛾の産卵した卵はA×B、B×Aの交雑種である（図7）。

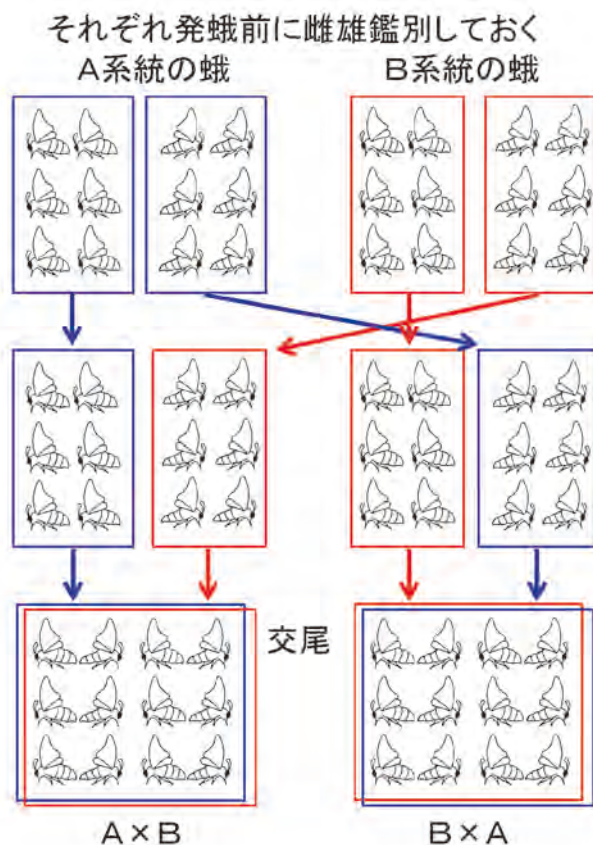


図7：交雑種の作り方（2）
左向きが♀、右向きが♂

昨年（2015年）、全国の蚕種屋では9,663箱飼育されていた。「箱」は蚕の単位で、1箱は蚕卵が2万粒の筈だが、地方によって粒数が異なっている。昭和の終わりくらいから、どこでもだいたい2万粒以上になり、その後年々増え、現在では3万粒近くなっているらしい。一応、単位なので1箱は2万粒として、9,663箱×2万

粒 = 19,626 万粒。昨年、日本では約 2 億頭の蚕が飼育されていた（日本の人口より多い！）。これらの卵を産んだ雌親は、1 蛾が 500 粒の卵を産んだとすると、9,663 箱 × 2 万粒 ÷ 500 粒 = 約 39 万頭いたことになる。蚕の雌雄は 1 : 1 なので、雄親も 39 万頭。日本の蚕種屋さんでは 78 万頭以上の雌雄を鑑別したことになる。最も繭生産量が多かった 1930（昭和 5）年は現在の約 3 千倍もの繭生産（40 万 t）をしていた。当時、孵化させるのに使った卵の重さを調べてみると 173,691,197g（大日本帝国統計年鑑）。なんと蚕の卵だけで 173 t である！ 5g で 1 万粒相当なので、その卵数は $173,691,197g \div 5g \times 10,000 \text{粒} = 3,473 \text{億} 8,239 \text{万} 4,000 \text{粒}$ （農家で 3 千 5 百億頭も飼育されていた！）。それを産んだ雌蛾の数は約 7 億。雄蛾同数で、雌雄鑑別された数は 14 億個体！ 孵化させなかった売れ残りの卵があるわけだから、数としてはこれ以上である。これを 1 年で雌雄鑑別して採卵していたらしい。いやはや、まさに気が遠くなる蚕が雌雄鑑別されてきたのである（計算していて桁がもう良くわからない）。

ちなみに先の老婦人が雌雄鑑別の講習を修了した頃（1955（昭和 30）年）、採卵された卵は 4,685 千箱分。1 箱を 2 万粒として 937 億粒、これを産んだ雌蛾が約 1 億 8,740 万蛾、雄蛾が同数なので雌雄鑑別した蚕の頭数は 3 億 7,480 万蛾。確かに鑑別士が必要であったのもうなずける。このように蚕は交雑種を利用するのに伴って大

量に雌雄を分けることが必要になった。

斑紋などによる簡単な雌雄の鑑別

現在では斑紋などで簡単に雌雄を鑑別できる蚕が田島弥太郎先生（たじまやたろう 図 8）によって育成されている。



図 8：田島弥太郎先生
（1913（大正 2）年 - 2009（平成 11）年）
（一財）大日本蚕糸会蚕業技術研究所提供

図 8 は国立遺伝研究所所長を退官され、大日本蚕糸会蚕業技術研究所時代の写真らしい。お歳は分からないが還暦を過ぎているだろう。田島先生は晩年までかくしゃく矍鑠とされており、日本蚕糸学会の学術講演会では最前列にどっしりと座られ、バシバシと鋭い質問をされていた。若輩の筆者は怖くて怖くて仕方が無かった。

田島弥太郎先生は東京高等蚕糸学校（現東京農工大学）の学生時代（1933（昭和 8）年）、小暮楨太先生こぐれまさたに師事され、卒業論文

として「カイコにおけるX線誘発突然変異の研究」を行った。黒縞蚕くろしま（図9）にX線を照射したところ、次代で黒縞ではない斑紋の蚕（図10）が出現した。黒い蚕から灰色の蚕が出現したのでびっくりされた筈である。黒縞の遺伝子に突然変異が起り、体色が灰色になったわけである。1927（昭和2）年、アメリカのマーラー博士がX放射線によって人為的に突然変異が起ることをショウジョウバエで発見したばかりの時期である。マーラー博士はこの業績でノーベル賞を受賞している。田島先生はわずか20歳で、遺伝の最先端の現象をつかまれた。図11は当時の田島先生である。



図9：黒縞蚕



図10：セーブル蚕（灰色の模様）と姫蚕（斑紋が無い）

田島先生は突然変異によって生じた灰色の蚕に、模様が動物の「貂てんの模様」に似ていることから「貂」の英語名「Sable（セーブル）」と名付けられた。筆者は学生に「セーブルとは貂のことだよ」と教えるのだが、教える方も教わる方も貂は馴染みがないのでどうもピンとこない。灰色の方が分かり易かったのではと思う。当時「貂」は一般に良く知られた動物だったのであろうか？

田島先生はこのセーブル蚕の出現が斑紋の遺伝子の突然変異によるものであることに気が付き、九州大学に進学する際この蚕を持参し、蚕室が使えるまで下宿で飼育を続けたそうである。九州大学でも、更に就職後もこのセーブル蚕の研究を継続された。田島先生はこのセーブル蚕こうだいの後代において雌雄で斑紋の異なる系統を得ている。それが♀がセーブル蚕、♂が普通の蚕の系統である。幼虫の体色を見ただけで簡単に雌雄鑑別かたこができる系統ができたわけである。さらに♀が形蚕かたこ（斑紋がある）、♂が姫蚕ひめこ（斑紋が無い）の系統が育成された（図12）。この系統は図2や図3のような雌雄鑑別を



図11：若き日の田島弥太郎先生
東京高等蚕糸学校の卒業アルバム（1934（昭和9））より

せずに、幼虫を見ただけで、雌雄鑑別できるわけである。この系統を基に1967（昭和42）年、日131号×中131号が実用化されている。セーブル蚕については田島先生の著書「生物改造-私のシルクロード-/裳華房（1991）」に詳しく書かれており、興味のある方は是非一読されたし。このように放射線照射によって雌雄で見た目が異なる蚕を作れることが田島先生により明らかにされたので、現在では斑紋だけでなく、卵色や繭色で雌雄が異なる系統が作成されている（図13、14）。研究室の学生には簡単に雌雄鑑別ができるので大好評である。

■横山 岳（よこやま・たけし）の紹介
 東京農工大学農学部
 生物生産学科蚕学研究室
 〒183-8509：東京都府中市幸町3-5-8
 TEL：042-367-5681
 FAX：042-367-5786
 E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
 HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko



図12：限性形蚕系統 ♀：形蚕（斑紋有り）、
 ♂：姫蚕（斑紋無し）



図13：限性黒卵系統 黒い卵が♀、白い卵が♂
 孵化する前に卵の色で雌雄が分かる。



図14：限性黄繭系統 黄繭が♀、白繭が♂
 収繭時に雌雄鑑別できる。

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（伊と幸） 出展者は、京都室町の独自の紋柄をもつ老舗の白生地問屋。同社のオリジナルブランド「松岡姫」の白生地の展示。	<会期> 平成 28 年 11 月 1 日（火）～25 日（金） 10：00～18：00	<主催> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 1 階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700 休館日：土、日、祝日
	（森秀織物） 出展者は、桐生産地の老舗の機屋。群馬県オリジナル蚕品種のぐんま 200 を碓氷製糸で繰糸し、自社で染色、撚糸、染織した伝統ある手法を用いた御召の展示。	<会期> 平成 28 年 12 月 5 日（月）～22 日（木） 10：00～18：00	
	（小倉商店） 出展者は、結城紬の織元問屋で「風土 3 1 研究会」を立ち上げ、養蚕農家から真綿商、小倉商店までが一体となって純国産結城紬の生産販売を行っている。蚕種は結城紬に適した朝・日×東・海を用い、結城紬の技術保存を目指しています。	<会期> 平成 29 年 1 月 10 日（火）～27 日（金） 10：00～18：00	
第 37 回企画展 宝塚歌劇衣装展 ～華麗なる舞台 衣装～	宝塚歌劇は、日本の演劇史上輝かしい軌跡を残し、多くの人々に夢と感動を与え続けています。そのおよそ 100 年の歴史の中で、多くのスターを生み出し、常に新たな可能性に挑み進化し続ける宝塚歌劇の華麗なる舞台衣装の世界を紹介します。	平成 28 年 10 月 22 日（土）～12 月 5 日（月） 9：30～17：00	<主催> 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
【秋特別展】 第 24 回全国染織 作品展	<p>絹は独特の光沢や風合い、発色性の良さなどを有し、古くから優れた衣料の素材として用いられてきました。そして、古代から受け継がれてきた高度な染織技術は、日本の大切な伝統文化となっています。</p> <p>本展では、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ、入選作品を一堂に展覧します。本展を通じて、次代をになう新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に寄与したいと考えています。</p> <p>[展示内容]</p> <p>◇全国公募による入選作品約 70 点</p> <p>◇入選作品のうち、入賞作品 10 点と特別賞 2 点</p>	<p><会期></p> <p>平成 28 年 10 月 8 日 (土)～11 月 13 日 (日)</p> <p>9:30～17:00 (入館は 16:30 まで)</p>	<p><主催></p> <p>シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町 1 番地 シルクセンター2 階 TEL : 045-641-0841 休館日 : 月曜日 年末年始(12 月 28～1 月 4 日) ※祝日の場合は翌日</p>
【冬企画】 「シルキーウィ ンターフェステ イバル」	<p>若い世代を含めたより多くの方々にシルク博物館やシルクセンターに来ていただき、楽しくシルクへの理解を深め、シルクに関わる産業の振興を図ることを目的として、横浜輸出スカーフ展示、シルキークリスマス等のクリスマスイベントを開催します。</p>	<p>平成 28 年 12 月 3 日 (土)～平成 29 年 1 月 9 日 (月・祝)</p>	

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
第9回現代手織物クラフト公募展	全国で独自の創作活動をしている織物のプロ、および将来プロを目指す方たちが創作した、独創的で優れた織物作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介するとともに、自立の道を拓く支援の場となることを目的とします。	<会期> 平成28年10月20日（木）～11月23日（水） 9:00～17:00	<主催> 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482 TEL0265-82-8381 <開館時間> 9:00～17:00 <休館日> 毎週水曜日
第55回農林水産まつり「実りのフェスティバル」	農林水産業と食に対する国民一般の理解の増進と農林水産物の消費拡大等に資するため、都道府県、農林水産関係団体の協力を得て、「実りのフェスティバル」（農林水産業啓発展及び地域農林水産展）を開催します。	平成28年11月11日（金）、12日（土） 11日は、10:00～17:00 12日は、10:00～16:00	<場所> サンシャインシティワールドインポートマートビル 4階展示ホールA （東京都豊島区東池袋） <主催> 農林水産省/（公財）日本農林漁業振興会 <問合せ> TEL: 03-6441-0791
シルクサミット2016 in 奄美～新蚕業の創出へ、奄美からの発信～	<基調講演> 「創傷被覆材としてのシルクの効果」 鹿児島県立大島病院皮膚科部長 馬場淳徳氏 <特別講演> 「シルクを用いた化粧品開発と商品化」 （株）アーダン 西博顯氏 ほか研究活動報告5件	<日時> 平成28年11月10日（木）、11日（金） 1日目： 講演 12:30～17:20 交流会 18:00～ 2日目： 見学会	<場所> 奄美観光ホテル（平安の間） 鹿児島県奄美市名瀬港2-10 TEL: 0997-52-2221 <主催> （国研）農業・食品産業技術総合研究機構、（一財）大日本蚕糸会、岡谷蚕糸博物館、シルクサミット2016in 奄美実行委員会

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
内外シルク研究会 （平成28年第2回）	講演 （1）「第9回中国国際絲綢会議」に参加して 蚕糸科学研究所長 清水重人氏 （2）「タイ国BEDO国際ワークショップ」に参加して 蚕業技術研究所長 新保博氏 （3）富岡市の蚕糸業について 富岡市農政課長 長谷川直純氏	<日時> 平成28年11月4日 （金）13:30～ <場所> 蚕糸会館6階第1会議室	<主催> 内外シルク研究会 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 中央蚕糸協会内 03-3214-5777 <お問合せ> 同上
「Nous tournons toujours le dos au couchant」 「わたしたちはしずむ夕陽にたえず背をむけるのだ」	昨年に続き2度目の「ニューイ・ブランシュ KYOTO」への参画となる特別展。千總のものづくりやきもののデザインにインスピレーションを得た4名のアーティストの作品を千總コレクションと共にご覧ください。	平成28年9月17日 （土）～11月27日 （日）	<主催> 千總ギャラリー 〒604-8166 京都府京都市中京区御倉町80番地 TEL：075-211-2531 FAX：075-211-2530 開館時間：9:30～18:00 休館日：水曜日

平成 28 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 28 年度第 3 次審査委員会を平成 28 年 9 月 21 日（水）に開催しました。今回は、使用許諾されている 4 者から申請があり、履歴の追加 2 者 2 品目、数量の追加 3 者 7 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、4 者 9 品目に対し、9 月 28 日（水）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) 織匠万勝 代表者名：前田章 (担当者：前田健) 〒604-8267 京都市中京区鍛冶町173-1 TEL：075-257-5747 表示者登録番号 026	後染反物 (色無地)	40反	繭生産 JA 佐波伊勢崎管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 織 自社 染色 岩崎染工 販売 (株)クワバラ
(数量・履歴の追加) (株)伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区龍池町448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	(数量の追加) 白生地(表地)	100反	蚕品種 松岡姫 繭生産 みちのく安達管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 織 羽賀織物
	(数量の追加) 白生地(表地)	100反	蚕品種 松岡姫 繭生産 みちのく安達管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 織 白数織物(有)
	(数量の追加) 白生地(表地)	50反	蚕品種 松岡姫 繭生産 みちのく安達管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 織 江口機業(株)
	(数量の追加) 白生地(襦袢地)	35反	蚕品種 松岡姫 繭生産 みちのく安達管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 織 河見保織物
	(履歴の追加) 白生地(表地)	50反	企画販売 丸中(株) 蚕品種 松岡姫 繭生産 みちのく安達管内養蚕農家 製糸 松岡(株) 織 白数織物(有)

<p>(数量の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒990-0301 山形県東村山郡山辺町山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190</p>	<p>先染反物 (綾御召)</p>	<p>68反</p>	<p>蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸 梅津撚糸工場 精練染色 佐米染色(有) 製織 自工房</p>
<p>(数量の追加) (株)千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 〒604-8166 京都市中京区御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001</p>	<p>後染反物(振袖)</p>	<p>30枚</p>	<p>繭生産 岩手県・福島県内養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 (株)松浦絹織 染色 自社</p>
	<p>後染反物(振袖)</p>	<p>80枚</p>	<p>繭生産 福島県内養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 (株)松浦絹織 染色 自社</p>

提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成28年9月21日（H28-第3次）現在

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合（絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪府中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
060	田中種 (株)	大阪府中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団、布団カバー、ハーフケット、パジャマ (男物、女物)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
061	(株)京扇	東京都中央区	後染反物(色無地)、胴裏(パールトーン加工)
062	(株)なごみや	横浜市都筑区	後染反物(色無地、黒紋付)
063	丸池藤井(株)	京都市中京区	後染反物(色無地)、八掛
064	久保商事(株)	京都市中京区	和装小物(帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ(株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋(株)	京都市中京区	後染反物(訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川(株)	京都市下京区	和装小物(帯締、帯揚)
068	第一衣料(株)	東京都中央区	後染反物(色無地)
069	(株)紅輪	川崎市宮前区	後染反物(色無地)
070	装いの道(株)	東京都千代田区	白生地(帯地、表地)、胴裏(トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま200、新小石丸)
071	(株)高橋屋	岩手県一関市	胴裏(灰汁浸加工)
072	おお又(株)	大阪市旭区	胴裏(灰汁浸加工)、ニット(靴下)
073	(株)天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏(ぐんま200(灰汁浸加工))、白生地(表地)
074	(株)きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏(パールトーン加工)
075	(株)とみひろ	山形県山形市	胴裏(酵素精練)
076	(株)細安	福井県福井市	胴裏(酵素精練)
077	京和きもの(株)	神奈川県厚木市	胴裏(酵素精練)
078	(株)まるため	長野県長野市	胴裏(トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株)小川屋	群馬県前橋市	胴裏(トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株)エムラ	山口県防府市	胴裏(酵素精練)
081	(株)荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏(酵素精練)
082	(株)牛島屋	富山県富山市	胴裏(酵素精練)、後染反物(小紋)
083	(株)谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏(酵素精練)
084	(株)登美屋	岩手県北上市	胴裏(パールトーン加工)
085	(株)川平屋	愛知県豊田市	胴裏(パールトーン加工)、後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料(株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏(パールトーン加工)
087	(株)大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地(胴裏、比翼地(振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株)あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品(ショール、マフラー)
090	藤井絞(株)	京都市中京区	後染反物(色無地)
092	(有)結城屋	兵庫県洲本市	白生地(表地)
093	(株)ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地(表地)
095	(有)カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品(冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品(スーツ地、ネクタイ、服飾品(スカーフ、ストール、シャツ))
096	(株)北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯)
097	(株)平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐(男物、女物)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島八丈町	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、襦紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (襦紗)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福紬織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ロープ 麿	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物))、裏地 (紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)

表示者登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	シヨール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物(首里織)、先染帯地(首里織)

提携支援センター活動日誌

No. 51 (H28.9.1 ~ H28.10.31)

年月日	活動内容等
28.9.21	純国産絹マーク審査委員会 (平成 28 年度第 3 次、書面審査)
28.9.28 ~ 28.9.29	福島県養蚕技術員会議への出席 (福島県)
28.10.18	蚕種業者及び人工飼料業者打合せ (東京都有楽町 蚕糸会館)
28.10.21 ~ 28.10.23	純国産宝絹 takaraginu 展 in 川崎大師平間寺の開催協力 (蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会主催・神奈川県川崎市川崎区)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800

名 称	〒	住 所	電 話
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
中央市豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
信州大学繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里・金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www5.somard.co.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

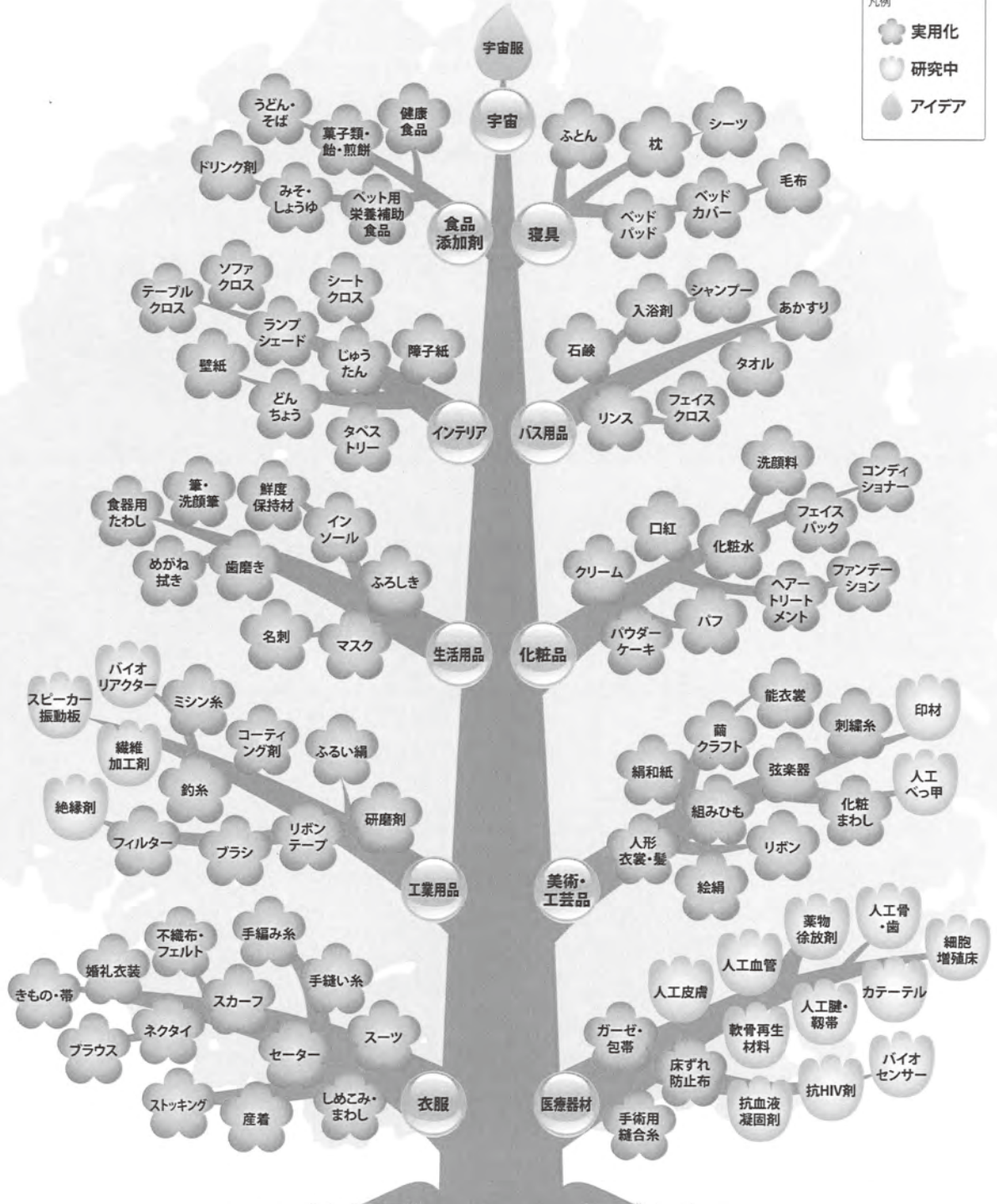
【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

絹利用の系統樹

- 凡例
- 🌸 実用化
 - 🍎 研究中
 - 💡 アイデア



絹の利用

絹利用検討会 (2012年)

原図:小松 計一

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	54
(2) 養蚕農家数の推移	55
(3) 繭生産数量の推移	56
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	57
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	58
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	59
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	60
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	61
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	62
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	63
(11) 製糸工場の原料繭需給	64
(12) 製糸工場の操業状況	65
(13) 生糸在庫数量の内訳	66
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	67
(15) 生糸の原産国別輸入数量	68
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	69
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	70
(18) 絹織物生産数量	71
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	72
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	73

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	74
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	75
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	76
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	77
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	78
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	79
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	80
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	81
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)	82
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	83

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	7	30	-	2,324
前年比(%) 2015/2014	93.6	90.6	96.8	100.0	100.0	88.2	-	85.0

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
前年比(%) 2015/2014		93.6	90.0	96.1	95.4

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
前年比(%) 2015/2014		90.6	89.1	88.9	93.1	97.1	98.7	93.6	98.9
2015年 構成比(%)		100.0	36.3	23.7	40.0	100.0	41.0	39.9	47.3

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年) .

The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比
青森県	-	-	-	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	11	73.3	10	14	140.0	15	15	100.0	18	18	100.0
宮城県	11	11	100.0	11	10	90.9	14	13	92.9	17	16	94.1
山形県	7	7	100.0	5	5	100.0	6	8	133.3	8	10	125.0
福島県	40	34	85.0	41	36	87.8	47	40	85.1	48	44	91.7
茨城県	18	13	72.2	11	11	100.0	13	11	84.6	18	13	72.2
栃木県	23	22	95.7	18	14	77.8	23	23	100.0	23	23	100.0
群馬県	130	122	93.8	84	80	95.2	120	119	99.2	140	133	95.0
埼玉県	30	29	96.7	20	21	105.0	27	27	100.0	31	31	100.0
千葉県	6	6	100.0	5	5	100.0	5	6	120.0	6	6	100.0
東京都	4	4	100.0	-	-	-	3	4	133.3	4	5	125.0
新潟県	8	7	87.5	-	-	-	-	-	-	8	7	87.5
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	11	7	63.6	5	5	100.0	11	8	72.7	12	9	75.0
長野県	14	14	100.0	10	9	90.0	13	15	115.4	17	16	94.1
岐阜県	11	8	72.7	-	-	-	9	5	55.6	11	8	72.7
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	-	1	-	2	2	100.0
京都府	3	3	100.0	-	-	-	2	3	150.0	3	3	100.0
兵庫県	1	1	100.0	-	1	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	11	11	100.0	5	5	100.0	9	6	66.7	11	11	100.0
高知県	3	2	66.7	-	1	-	2	2	100.0	3	2	66.7
熊本県	5	4	80.0	-	-	-	2	-	-	5	4	80.0
宮崎県	2	1	50.0	-	-	-	1	1	100.0	2	1	50.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	359	323	90.0	230	221	96.1	328	313	95.4	393	368	93.6

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年 間		
	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比
青森県	-	-	-	113.7	-	-	93.7	92.4	98.6%	207.4	92.4	44.6%
岩手県	1,619.2	1,470.0	90.8%	1,450.7	1,936.6	133.5%	1,989.4	1,926.8	96.9%	5,059.3	5,333.4	105.4%
宮城県	1,791.2	1,472.6	82.2%	2,267.0	1,880.1	82.9%	2,363.9	2,191.9	92.7%	6,422.1	5,544.6	86.3%
山形県	1,222.5	1,314.5	107.5%	597.6	809.2	135.4%	1,570.4	1,483.4	94.5%	3,390.5	3,607.1	106.4%
福島県	8,335.8	6,417.0	77.0%	8,246.5	5,598.4	67.9%	11,998.8	9,184.6	76.5%	28,581.1	21,200.0	74.2%
茨城県	2,335.3	2,147.4	92.0%	1,314.7	1,405.0	106.9%	2,292.5	1,858.3	81.1%	5,942.5	5,410.7	91.1%
栃木県	8,047.0	7,919.8	98.4%	4,528.4	3,240.3	71.6%	10,309.9	9,364.9	90.8%	22,885.3	20,525.0	89.7%
群馬県	19,166.0	16,881.6	88.1%	11,382.4	11,715.2	102.9%	16,456.4	18,863.3	114.6%	47,004.8	47,460.1	101.0%
埼玉県	3,796.1	3,278.6	86.4%	2,191.5	2,271.8	103.7%	3,708.5	3,085.0	83.2%	9,696.1	8,635.4	89.1%
千葉県	1,001.6	1,105.6	110.4%	568.2	452.1	79.6%	1,026.2	931.0	90.7%	2,596.0	2,488.7	95.9%
東京都	210.4	212.3	100.9%	-	-	-	133.0	168.5	126.7%	343.4	380.8	110.9%
山梨県	2,372.2	1,904.8	80.3%	813.6	754.9	92.8%	1,882.0	1,773.4	94.2%	5,067.8	4,433.1	87.5%
長野県	1,813.2	1,572.7	86.7%	1,319.9	1,039.4	78.7%	1,771.7	1,818.1	102.6%	4,904.8	4,430.2	90.3%
新潟県	124.6	113.5	91.1%	-	-	-	-	-	-	124.6	113.5	91.1%
福井県	41.7	54.1	129.7%	33.3	26.8	80.5%	34.5	41.6	120.6%	109.4	122.5	112.0%
岐阜県	673.5	534.3	79.3%	-	-	-	568.3	457.0	80.4%	1,241.8	991.3	79.8%
愛知県	58.4	75.2	128.8%	-	-	-	0.0	35.0	-	58.4	110.2	188.7%
兵庫県	55.0	45.0	81.8%	-	40.3	-	65.0	44.7	68.8%	120.0	130.0	108.3%
京都府	82.7	74.3	89.8%	-	-	-	41.5	59.3	142.9%	124.3	133.6	107.5%
愛媛県	1,596.1	1,591.7	99.7%	952.2	1,140.3	119.8%	1,141.8	864.9	75.7%	3,690.1	3,596.9	97.5%
高知県	177.7	103.4	58.2%	-	59.7	-	82.4	64.9	78.8%	260.1	228.0	87.7%
熊本県	459.2	101.9	22.2%	-	-	-	73.6	-	-	532.8	101.9	19.1%
宮崎県	113.7	68.5	60.2%	-	-	-	34.4	58.7	170.6%	148.1	127.2	85.9%
鹿児島県	82.0	84.0	102.4%	77.0	93.2	121.0%	71.0	77.5	109.2%	230.0	254.7	110.7%
全国計	55,175.0	48,542.8	88.0%	35,856.6	32,463.3	90.5%	57,708.9	54,445.1	94.3%	148,740.5	135,451.2	91.1%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4	2,899	30.0
錦秋 × 鐘和月		1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	17.9	1,946	20.1
春嶺 × 鐘200		838	8.2	1,871	16.7	1,116	11.4	1,242	12.9
春嶺1号 × 鐘月1号		1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	11.3	1,019	10.5
小松 × 岡石		1,175	11.5	380	3.4	872	8.9	780	8.1
小松 × 岡石		340	3.3	547	4.9	350	3.6	300	3.1
小松 × 岡石		67	0.7	76	0.7	134	1.4	180	1.9
小松 × 岡石		416	4.1	166	1.5	140	1.4	136	1.4
小松 × 岡石		55	0.5	111	1.0	76	0.8	134	1.4
小松 × 岡石		70	0.7	64	0.6	103	1.1	116	1.2
小松 × 岡石		50	0.5	67	0.6	58	0.6	110	1.1
小松 × 岡石		324	3.2	317	2.8	129	1.3	107	1.1
小松 × 岡石				47	0.4	126	1.3	95	1.0
小松 × 岡石		33	0.3	48	0.4	52	0.5	93	1.0
小松 × 岡石		95	0.9	71	0.6	23	0.2	78	0.8
小松 × 岡石		64	0.6	76	0.7	128	1.3	58	0.6
小松 × 岡石		36	0.4	53	0.5	42	0.4	43	0.4
小松 × 岡石		28	0.3	49	0.4	8	0.1	43	0.4
小松 × 岡石				63	0.6	23	0.2	41	0.4
小松 × 岡石		93	0.9	85	0.8	92	0.9	39	0.4
小松 × 岡石		15	0.1	17	0.2	20	0.2	39	0.4
小松 × 岡石				7	0.1	33	0.3	33	0.3
小松 × 岡石		33	0.3	42	0.4	20	0.2	32	0.3
小松 × 岡石				92	0.8	31	0.3	26	0.3
小松 × 岡石		7	0.1	41	0.4	18	0.2	22	0.2
小松 × 岡石						22	0.2	11	0.1
小松 × 岡石		15	0.1	21	0.2	16	0.2	11	0.1
小松 × 岡石		7	0.1	6	0.1	5	0.1	8	0.1
小松 × 岡石						4	0.0	8	0.1
小松 × 岡石		27	0.3	33	0.3			6	0.1
小松 × 岡石								5	0.1
小松 × 岡石		4	0.0	4	0.0	4	0.0	4	0.0
小松 × 岡石						4	0.0	4	0.0
小松 × 岡石						10	0.1		
小松 × 岡石						8	0.1		
小松 × 岡石						3	0.0		
小松 × 岡石						2	0.0		
小松 × 岡石									
小松 × 岡石		5	0.0	9	0.1				
小松 × 岡石		7	0.1	8	0.1				
小松 × 岡石				4	0.0				
小松 × 岡石		2	0.0	2	0.0				
小松 × 岡石				1	0.0				
小松 × 岡石		143	1.4						
小松 × 岡石		80	0.8						
小松 × 岡石		61	0.6						
小松 × 岡石		10	0.1						
小松 × 岡石		7	0.1						
小松 × 岡石		7	0.1						
小松 × 岡石		2	0.0						
小松 × 岡石		1	0.0						
小松 × 岡石		1	0.0						
合計		10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0	9,663	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,316	14,051	302	5,468	5,085
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 — 1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8		589	0			967	9	383	332

資料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査（～2010.3）、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.3）、中央蚕糸協会（2012.12～）。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D)={前月在庫数量+(A)+(B)}-{(C)+(E)}。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、Central Raw Silk As(2012.12～)。

(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.
(F)(G)(H)(I)The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	0	149	202	73	82
2013	409	0	109	105	57	138
2014	447	0	114	116	62	155
2015	378	0	146	86	36	110
2014 - 1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 - 1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11
8	25	—	8	9	0	8
9	23	—	14	3	1	5
10	28	—	8	12	0	8
11	25	—	12	5	2	6
12	27	—	14	4	1	8
2016 - 1	23	—	7	11	0	5
2	33	—	10	7	4	12
3	38	—	9	12	11	6
4	26	—	6	12	1	7
5	24	—	3	7	2	12
6	17	—	11	3	0	3
7	26	—	10	10	0	6

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of
60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
前年比(%) 2015/2014	98	100	—	98	75	93	92	100	98	93	—	—	92	500	98	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	70.6
女子用外衣類 Women's upper garments		37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	122.8	45.3
うちブラウス Blouse of the inside		2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	41.4	0.8
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	65.0	0.9
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	85.8	13.0
ハンカチ Handkerchief		0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	100.0	0.2
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	95.0	1.3
ネクタイ類 Ties		18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	80.4	5.4
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	87.7	12.4
その他の洋装類 Other western clothes		22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	89.3	11.0
洋装類計 Western clothes subtotal	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	100.8	91.2	
和装類計 Japanese clothes subtotal	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	84.4	7.1	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	85.1	5.9	
その他 Others	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	144.4	1.8	
合計 Total	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	99.9	100.0	

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	806	830	589
	2006	600	645	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
2014 —	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015 —	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016 —	1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会(2012.12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	56
	2014 - 1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
	2015 - 1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	25	23	53
	2016 - 1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015	1,410	1,410	94	—	1,316				
2014 — 1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				
12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 — 1	1,343	1,343	93	—	1,251				
2	1,364	1,364	97	—	1,267				
3	1,637	1,637	119	—	1,518				
4	1,249	1,249	116	—	1,133				
5	1,470	1,470	114	—	1,356				
6	1,394	1,394	111	—	1,283				
7	1,432	1,432	107	—	1,325				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成28年(2016)		平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	27年/26年 2015/2014 (%)
		(8月) Aug.	(累計) Accumulat ed Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	589	4,165	12,075	12,207	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	78.7
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	967	8,091	16,647	16,306	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	94.8
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	29	149	82	62	81	169	48	33	68.8
繭 Cocoon	kg	0	1,000	9,800	13,158	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	66.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	62	3,733	33,450	9,395	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	75.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	7,330	35,525	125,999	134,852	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	88.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	7,392	39,258	159,449	144,247	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	87.2
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	30,361	229,590	335,710	451,219	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	75.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	7,663	79,795	97,554	104,374	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	105.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	382,685	3,531,956	9,027,911	8,930,391	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	89.7

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2014 - 1	776	687	88	-	1	-
2	591 (2)	465 (2)	107	-	-	20
3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	-	-
4	270 (4)	169 (4)	100	-	2	-
5	927 (25)	795 (20)	132 (5)	-	-	-
6	869 (17)	683 (7)	133 (10)	50	2	-
7	599	522	75	-	2	-
8	548	459	79	10	-	-
9	591	480	111	-	-	-
10	748 (14)	660 (14)	83	5	-	-
11	667 (5)	564 (5)	103	-	-	-
12	600 (10)	544 (10)	56	-	-	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks: 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2014 —	1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
	2	677	—	313	271	1	—	91	—
	3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
	4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
	5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
	6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
	7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
	8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
	9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
	10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
	11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
	12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
	9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
	10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
	11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
	12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 —	1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
	2	797	—	468	292	0	0	35	2
	3	911	—	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
	5	900	—	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
	8	967	—	566	332	—	—	69	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2014 -										
1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 -										
1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 -										
1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source: The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks: A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,298	6,980	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	9,955	3,239	1,254	1,045	939	5,288	3,441	1,847	1,428
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2014 —									
1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 —									
1	191	98	60	3	36	52	22	30	41
2	182	86	57	2	27	53	25	29	43
3	192	94	60	3	31	57	27	30	41
4	208	110	57	2	51	58	29	29	40
5	182	99	52	3	43	50	22	28	33
6	217	121	57	3	61	54	24	30	42
7	206	111	53	3	54	55	23	33	40
8	161	84	54	3	28	44	20	24	32
9	183	99	53	3	43	49	23	26	36
10	198	105	56	3	45	54	24	30	40
11	193	106	52	3	52	52	23	29	35
12	200	115	52	3	59	50	21	29	36
2016 —									
1	172	94	54	3	38	44	18	26	34
2	172	85	53	3	30	50	22	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	161	81	47	3	30	45	21	24	35

資 料：(一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.5	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,313	84.6	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2014 —								
1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 —								
1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 —								
1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8		
9			26,624	93.3	3,175	97.1		

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2014 - 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	5.3	317	213.9	4,653	11.0	3,057	2.8	1,151	2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

一資料・海外一

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2009年	2010年	2011年
日本	Japan	トン 327	トン 265	トン 220
中国	China	575,299	617,915	836,000
インド	India	131,661	131,924	185,968
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	4,673
ブラジル	Brazil	4,835	4,439	3,037
タイ	Thailand	4,655	4,655	4,580
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,896	20,000	9,400
イラン	Iran	1,185	1,185	789
トルコ	Turkey	140	140	154
インドネシア	Indonesia	133	161	143
ブルガリア	Bulgaria	51	75	48
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	4.0	4	6.0
シリア	Syria	4.0	4	3.3
主要国の計	Total	765,290	801,867	1,045,121

区 分		2012年	2013年	2014年
日本	Japan	トン 202	トン 168	トン 149
中国	China	831,000	817,000	819,000
インド	India	190,960	213,548	231,516
ベトナム	Vietnam	4,206	4,439	3,925
ブラジル	Brazil	2,620	2,608	2,563
タイ	Thailand	4,580	4,755	4,839
ウズベキスタン	Uzbekistan	9,400	9,800	11,000
イラン	Iran	809	809	724
トルコ	Turkey	154	175	224
インドネシア	Indonesia	143	114	71
ブルガリア	Bulgaria	73	73	65
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	5.4	6.0	6.6
シリア	Syria	3.3	4.7	3.3
主要国の計	Total	1,044,256	1,053,600	1,074,186

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2009年		2010年		2011年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	69	1,152	53	882	44	731
中国	China	92,455	1,540,917	95,778	1,596,300	103,849	1,730,817
インド	India	16,322	272,033	16,360	272,667	23,060	384,333
ベトナム	Vietnam	550	9,167	2,250	37,500	500	8,333
ブラジル	Brazil	811	13,517	770	12,833	558	9,300
タイ	Thailand	665	11,083	665	11,083	655	10,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	780	13,000	940	15,667	940	15,667
イラン	Iran	82	1,367	75	1,250	120	2,000
トルコ	Turkey	20	333	18	300	22	367
インドネシア	Indonesia	19	317	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9.0	150	6.0	100
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	1	17	1	17	1	17
シリア	Syria	0.6	10	0.6	10	0.5	8
主要国の計	Total	111,788	1,863,129	116,944	1,949,059	129,779	2,162,989

区 分		2012年		2013年		2014年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	30	506	25	409	28	466
中国	China	126,000	2,100,000	130,000	2,166,667	146,000	2,433,333
インド	India	23,679	394,650	26,480	441,333	28,708	478,467
ベトナム	Vietnam	450	7,500	475	7,917	420	7,000
ブラジル	Brazil	440	7,333	440	7,333	433	7,217
タイ	Thailand	655	10,917	680	11,333	692	11,533
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	980	16,333	1,100	18,333
イラン	Iran	123	2,050	123	2,050	110	1,833
トルコ	Turkey	22	367	25	417	32	533
インドネシア	Indonesia	20	333	16	267	10	167
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9	150	8	133
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	0.9	15	1.0	17	1.1	18
シリア	Syria	0.5	8	0.7	12	0.5	8
主要国の計	Total	152,374	2,539,563	159,258	2,654,304	177,547	2,959,109

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province		区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
			2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
山	西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	64	55	65	61
河	北	Hebei								
遼	寧	Liaoning					4,184	2,463	2,310	4,504
江	蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	13,003	19,493	20,949	29,738
浙	江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	5,748	6,688	14,293	15,505
安	徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	5,040	8,139	8,909	9,101
江	西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072		3,021	4,653	6,225
山	東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	3,613	5,452	4,949	3,414
河	南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984			1,972	2,160
湖	北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	437	572	1,007	1,683
湖	南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988				
広	東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	1,183	1,548	1,726	2,312
広	西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	8,312	27,834	35,425	40,645
重	慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	3,811	3,402	3,653	4,730
四	川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	27,742	27,268	29,065	38,096
貴	州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	182	128	234	291
雲	南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	2,108	2,777	2,814	3,433
陝	西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	4,391	4,642	5,067	5,386
甘	肅	Gansu	373	385	364	348				
寧	夏	Ningxia	575	610	826	578				
新	疆	Xinjiang	100	150	100	100				
内	蒙	Inner Mongolia								
合	計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	79,817	113,478	137,090	167,284

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
北 京	Beijing															
天 津	Tianjin															
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
内 蒙 古	Inner Mongolia															
遼 寧	Liaoning														0.0	0.0
吉 林	Jilin															
黒 龍 江	Heilongjiang															
上 海	Shanghai															
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.1	11.9	10.7	11.7	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7
浙 江	Zhejiang	9.5	11.0	9.9	7.9	8.4	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7
安 徽	Anhui	2.5	2.7	2.8	2.6	3.0	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1
福 建	Fujian														0.0	
江 西	Jiangxi	0.3	0.5	0.7	0.8	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.9	6.9	6.7	6.6	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5
河 南	Henan	1.3	1.5	1.7	1.1	1.4	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6
湖 南	Hunan		0.1	0.1	0.2	0.1									0.0	0.1
広 東	Guangdong	3.1	4.5	5.3	5.2	5.7	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5
広 西	Guangxi	3.0	5.6	7.4	8.7	10.7	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0
海 南	Hainan													0.1	0.0	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.2	3.4	2.8	2.9	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8
四 川	Sichuan	8.7	9.2	9.3	9.3	9.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.9	1.1	1.3	2.6	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2
チベット	Tibet															
陝 西	Shaanxi	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2
甘 肅	Gansu														0.0	0.0
青 海	Qinghai															
寧 夏	Ningxia															
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.2	0.1											
合 計	Total	50.1	60.2	64.5	61.1	67.7	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2016年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		113.98 ~ 129.60	1,710 ~ 1,944
2	玉繭(double cocoon)		96.86 ~ 104.48	1,453 ~ 1,567
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	98.94 ~ 113.10	1,484 ~ 1,697
4	ビス(bisu)		88.72 ~ 97.30	1,331 ~ 1,460
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	339.68 ~ 343.88	5,095 ~ 5,158
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	340.56 ~ 347.80	5,108 ~ 5,217
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	331.40 ~ 335.80	4,971 ~ 5,037
8	玉糸(doupion silk)	110d	315.00 ~ 332.20	4,725 ~ 4,983
9	土糸(native silk)	110d	283.20 ~ 291.60	4,248 ~ 4,374
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.70 ~ 30.80	431 ~ 462
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	25.30 ~ 28.03	380 ~ 420
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	43.00 ~ 47.20	645 ~ 708
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	46.20 ~ 49.27	693 ~ 739
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	41.00 ~ 43.93	615 ~ 659
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	33.47 ~ 36.80	502 ~ 552

注:1元=15円

2016年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		115.75 ~ 136.25	1,736 ~ 2,044
2	玉繭(double cocoon)		98.73 ~ 108.53	1,481 ~ 1,628
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	101.53 ~ 120.38	1,523 ~ 1,806
4	ビス(bisu)		93.20 ~ 100.28	1,398 ~ 1,504
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	356.70 ~ 361.08	5,351 ~ 5,416
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	358.65 ~ 363.70	5,380 ~ 5,456
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	344.25 ~ 350.75	5,164 ~ 5,261
8	玉糸(doupion silk)	110d	327.25 ~ 344.25	4,909 ~ 5,164
9	土糸(native silk)	110d	297.25 ~ 314.25	4,459 ~ 4,714
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.63 ~ 32.13	444 ~ 482
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	25.58 ~ 28.58	384 ~ 429
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	44.00 ~ 48.50	660 ~ 728
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	47.75 ~ 51.25	716 ~ 769
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	42.00 ~ 44.83	630 ~ 672
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	34.67 ~ 38.00	520 ~ 570

注:1元=15円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0

資料： 中国統計年鑑 (2015)

Source: China Statistical Yearbook 2015

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)							
					名目賃金 Average Wage				実質賃金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5

資料：中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110
合計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360

(出所)中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011
合計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840
年別人民元yuan/円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金 (単位:元)(yuan)	円換算 (円)(yen)	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	102,268	1,943,092	181.45
天	津	Tianjin	72,773	1,382,687	129.12
河	北	Hebei	45,114	857,166	80.05
山	西	Shanxi	48,969	930,411	86.89
内	蒙	Inner Mongolia	53,748	1,021,212	95.37
遼	寧	Liaoning	48,190	915,610	85.50
吉	林	Jilin	46,516	883,804	82.53
黒	龍	Heilongjiang	44,036	836,684	78.13
上	海	Shanghai	100,251	1,904,769	177.88
江	蘇	Jiangsu	60,867	1,156,473	108.00
浙	江	Zhejiang	61,572	1,169,868	109.25
安	徽	Anhui	50,894	966,986	90.30
福	建	Fujian	53,426	1,015,094	94.79
江	西	Jiangxi	46,218	878,142	0.03
山	東	Shandong	51,825	984,675	91.95
河	南	Henan	42,179	801,401	74.84
湖	北	Hubei	49,838	946,922	88.43
湖	南	Hunan	47,117	895,223	83.60
広	東	Guangdong	59,481	1,130,139	105.54
広	西	Guangxi	45,424	863,056	80.60
海	南	Hainan	49,882	947,758	88.51
重	慶	Chongqing	55,588	1,056,172	98.63
四	川	Sichuan	52,555	998,545	93.25
貴	州	Guizhou	52,772	1,002,668	93.63
雲	南	Yunnan	46,101	875,919	81.80
西	蔵	Tibet	61,235	1,163,465	108.65
陝	西	Shaanxi	50,535	960,165	89.66
甘	肅	Gansu	46,960	892,240	83.32
青	海	Qinghai	57,084	1,084,596	101.28
寧	夏	Ningxia	54,858	1,042,302	97.33
新	疆	Xinjiang	53,471	1,015,949	94.87
全	国	Average	56,360	1,070,840	100.00

(出所) 中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook 2015

(注) 1元=19円 Note: 1yuan=19yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料: ブラタク製糸株式会社

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2016年11月号 NO.51 平成28年11月1日発行

編集 / 発行

**一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず